

取扱書

よくお読みになってご使用ください。 取扱書は車の中に保管しましょう。



このたびは **SUCCEED** をお買い上げいただき、ありが とうございます。

本書は**サクシード**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。

安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みくだ さい。



- ・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
- ・メーカーオプションのDVDナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
- ・トヨタ販売店で取りつけられた装備(販売店オプション)の取り扱いについては、その商品 に付属の取扱書をお読みください。
- ・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
- ・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。
 - ●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
 - ●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網/お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
 - ●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管して ください。
 - ●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。

とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章:安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章:基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章:運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章: 室内装備の取り扱い

エアコン、ラジオ、室内装備品(時計、カップホルダーなど)の取り扱いを説明しています。

第5章:安全・快適装備の解説と注意

SRSエアバッグ、ABSなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章:車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章:メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章: 万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の 故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下 記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで 遵守してください。





記載事項をお守りいただかないと、重大な 傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の 場合死亡につながるおそれがあること。





記載事項をお守りいただかないと、傷害、 車両の故障や破損につながるおそれがある こと。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」 を下記の表示で記載しています。



知 知 識

知っておくと便利なこと。 知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

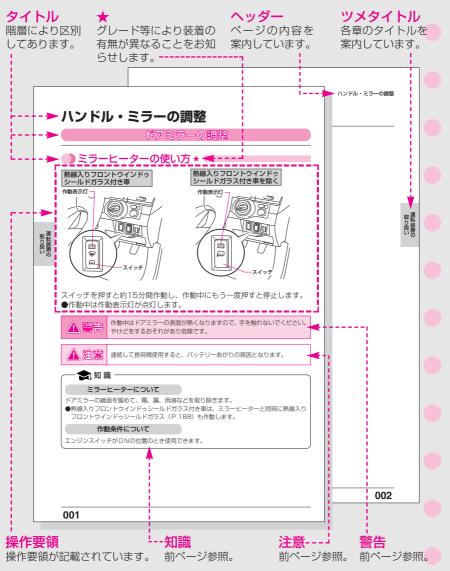
してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載さ れています。



してはならない行為。

操作説明(3~8章)の見方

操作説明(3~8章)の基本的な読み方について説明しています。



■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系(略称SI単位)を基本に記載し、従来単位を { } 内に記載してあります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、 次のような工夫がしてあります。



タイトルからさがす

6

- ■「目次」
- ■「ツメタイトル」
- ■「各章のはじめの目次」



取りつけ位置からさがす

■「イラスト目次」



名称からさがす

348

■ 「五十音さくいん」



警告灯からさがす

356

■「警告灯さくいん」



症状からさがす

348

■「五十音さくいん」 (色つき文字の項目)



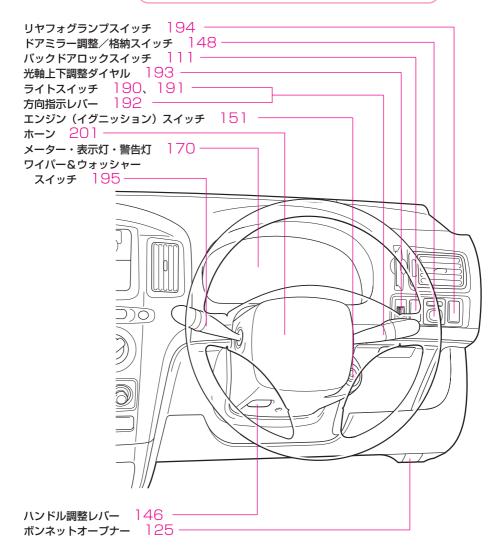


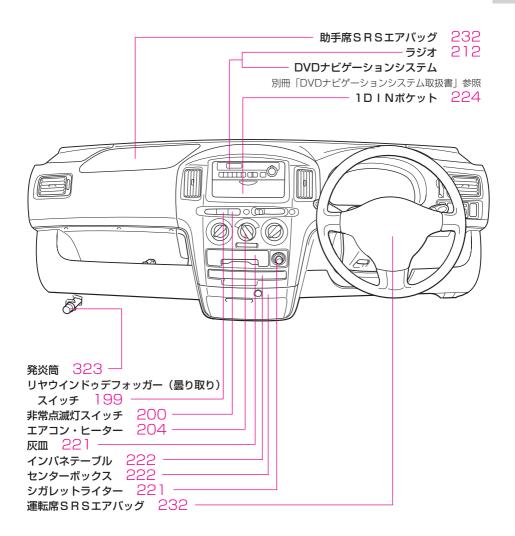
	イラスト目次	8
A	安全ドライブのた	
	必ず守っていただ	き
	たいこと	13
	基本操作早わかり	
	(はじめてこの車にお乗りになるかた	
		85
	運転装置の取り扱	LI
5		102
	室内装備の取り扱	()
4		203
	安全・快適装備の	
	解説と注意	231
5	車との上手な	
U	付き合い方	253
7	メンテナンス	269
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	200
Y	万一のとき	317
U		
	さくいん	348
		- · -

・安全・快適ドライブのために ・安全装備について ・運転装置について	14 41 60	・メンテナンスについて ・オーバーヒート・万一の事故 ・その他の注意	67 78 81	警告
・各部の開閉 ・シートの調整 ・シートベルトの着用 ・運転するときは	86 88 90 92	・警告灯 ・スイッチ類の取り扱い ・エアコン・ラジオ	96 98 100	早基わか操り作
・ドア・ドアガラスなどの開閉 ・シートの調整 ・シートベルトの着用 ・ハンドル・ミラーの調整 ・エンジンのかけ方 ・シフトレバーの使い方	104 128 138 146 151 156	・オートマチック車の運転のしかが ・パーキングブレーキの使い方 ・メーター・表示灯・警告灯の見か ・スイッチの使い方 (ライト・ワイパーなど)	168	取り扱い
・エアコン・ヒーターの取り扱い ・ラジオの取り扱い	204 212	・室内装備品の使い方 (サンバイザー・時計など)	219	取り扱い
・SRSエアバッグ ・シートベルト関係 ・EBD付ABS &ブレーキアシスト	232 242 244	・Vフレックスフルタイム4WD ・Super ECT ・クラッチスタートシステム	248 250 252	の解説と注意
・雨の日の運転について ・寒冷時の取り扱い	254 255	・経済的な運転 ・環境保護のために	264 266	付き合い方
・車の手入れ ・日常点検	270 294	・メンテナンスデータ	308	メンテナンス
・工具・スペアタイヤ・発炎筒 ・故障したときは ・パンクしたときは ・バッテリーがあがったときは	318 326 328 335	・オーバーヒートしたときは ・けん引について ・事故が起きたときは ・車両を緊急停止するには	338 342 346 347	万一のとき
・五十音さくいん	348	・警告灯さくいん	356	
			7	

イラスト目次

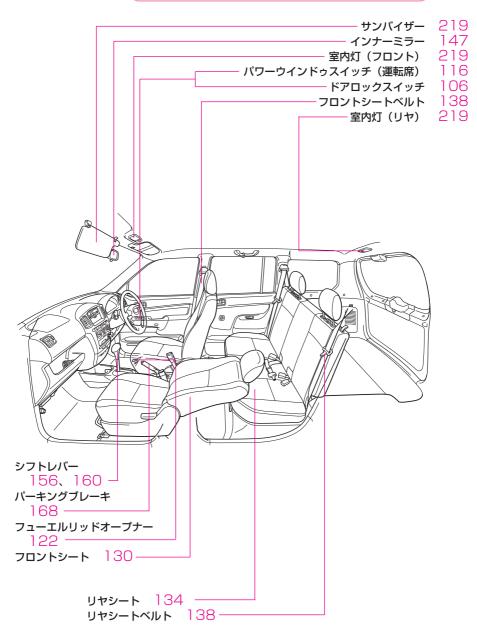
インストルメントパネル





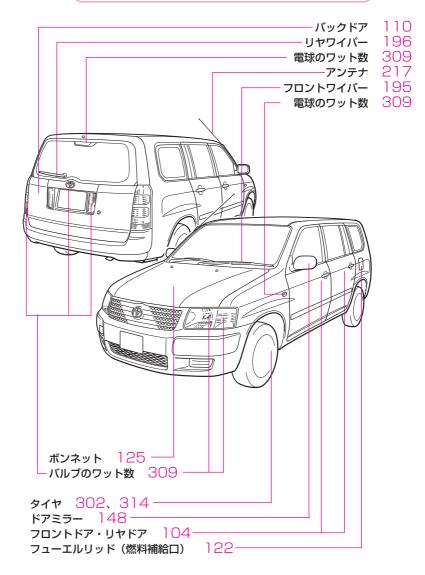
イラスト目次

室内



イラスト目次

車両外観



MEMO

安全ドライブのために 必ず守っていただき たいこと

安全・快適ドライブの

注意 60

2. 4WD車についての注意 64



「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および 「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されて います。重要ですので必ずお読みください。

グメンテナンフについて

ために14	···· 67
 1. 点検整備実施のお願い 14 2. お出かけ前の注意 15 3. 燃料補給時の注意 20 	1. 点検・手入れ時の注意 67 2. タイヤについての注意 69
4. 走行するときの注意 22 5. 走行中、異常に 気づいたら 30 6. 駐停車するときの注意 33 7. 排気ガスに対する注意 35 8. お子さまを 乗せるときの注意 38	3. バッテリーについての 注意 74 4. ジャッキアップについての 注意 76 オーバーヒート・ 万一の事故 ・・・・・・・ 78 1. オーバーヒートについての
安全装備について 41 1. シートについての注意 41 2. 子供専用シートについての注意 44 3. シートベルトについての注意 47 4. SRSエアバッグについての	注意 78 2. 万一の事故のときの注意 79 その他の注意 ·········· 81
注意 54 5. EBD付ABS&ブレーキ アシストについての注意 59 運転装置について 60	



1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。 実施していただかないと、重大な車両故 障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してくださ い。



- ●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが 法律で義務づけられています。
 - 日常点検(P.294参照)や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
 - ●定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。 定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の 適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●点検整備は自動車の健康診断です。定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、 末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。
- ●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度(摩耗限度)を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。
- ●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。



お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- ●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- ②低水温表示灯(青色)が消灯するまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。



- ●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するお それがあります。
- ●暖機は低水温表示灯(青色)が消灯する程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア(バックドアを含む)が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯(P.187)が点灯します。

4フロントガラス前部の外気取り 入れ口に雪、落ち葉などがつい ているときは取り除いてくださ い。



●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上 がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整し たときは、確実に固定されてい ることを確認してください。



●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを 置かないでください。



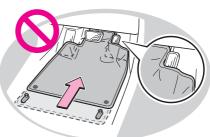
●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作が できなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につなが るおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固 定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車(年式)専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

- ●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - ●運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - ●付属のフック(クリップ)を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。



- ●他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、 裏返して使用しないでください。
- ●運転する前に、以下のことを確認してください。
 - フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
 - ●エンジン停止およびシフトレバーが**②** (オートマチック車) または**③** (マニュアル車) の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。





⑧助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。



- ●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●荷物はラゲージルームに安定した状態(例えば、ラゲージルーム前方に均等に) で置いてください。

⑨燃料が入った容器やスプレー缶 などは積まないでください。



- ●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
- ●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

①次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- ●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
- ●ハンドル操作に異常を感じたとき。
- ●ブレーキ液が不足しているとき。
- ●地面に油のもれたあとが残っているとき。
- ●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。

②お酒を飲んでの運転は絶対にし ないでください。



- ●飲酒運転は法律で禁止されています。
- ●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- ③エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。
- ●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の 原因となるおそれがあります。



3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず 守ってください。

お守りいただかないと、燃料に引火して、 やけどなどの重大な傷害におよぶか、最 悪の場合死亡につながるおそれがありま す。

①指定以外の燃料を使用しないで ください。



- ●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- ●指定以外の燃料(粗悪ガソリン・灯油・アルコール系燃料など)を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。



- ●エンジンは必ず停止してください。
- ●車のドア、窓は閉めてください。
- ●タバコなど火気を近づけないでください。
- ●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- ●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。

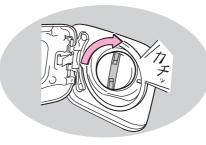
気温が高いときなどに、燃料タンク内の 圧力が高くなっていると、給油口から燃 料が吹き返すおそれがあります。

フューエルキャップを少しゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、それ以上開けないでください。

その音が止まってからゆっくり開けてください。



- ●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ 足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、"カチッ"と音がするまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- ●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- ●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。



③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

マミ部分



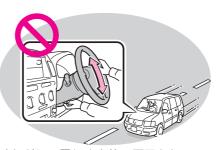
走行するときは、次の事項を必ず守って ください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。



- ●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、 ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。
- ●マニュアル車は、キーを "LOCK"にするとキーが抜け、ハンドルがロックされハンドル操作できなくなるおそれがあります。
- ②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。



●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故の原因となって、 生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。
- ●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



4マニュアル車は、クラッチペダ ルに足をのせたまま走行したり、 必要以上に長い時間、半クラッ チ操作を行わないでください。



- ●クラッチが早く磨耗したり、過熱し、クラッチが破損することで、思わぬ事故に つながるおそれがあり危険です。
- (5)ブレーキペダルに足をのせたり、 パーキングブレーキをかけたま ま走行しないでください。



●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、 思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑥下り坂ではエンジンブレーキを 併用してください。



●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれが あり危険です。

(7)車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- ●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、 ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。
- ●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした 状態を長く続けないでください。



●オイルの温度が上がりすぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話 や携帯電話を運転者は運転中に 使用しないでください。



- ●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、 法律で禁止されています。
- ●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、 思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場 所に停車してから使用してください。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。



- ●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、 車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- ●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。



①冠水した道路は走行しないでく ださい。



- ●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を 吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店 で下記の項目などを点検してください。
 - ブレーキの効き具合。
 - エンジン・トランスミッション・トランスファー(4WD車)・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。(白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。)
 - ●プロペラシャフト(4WD車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

②大きな段差がある場所では慎重 に走行してください。



- ●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、 スピードをおとして慎重に走行してください。
 - ●駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
 - 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
 - 輸止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
 - ●凹凸やわだちのある道を走行するとき
 - くぼみ (穴) などを通過するとき
 - ●平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦 な道に進入するとき

③湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを ※の位置にしないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(I)スタック *したときは

※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。



- ●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがありた険です。
- ●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト(破裂)したり、駆動部品(ディファレンシャルギヤなど)の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷をあたえるおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - ●オートマチック車は、シフトレバーを**⑩**(または**⑬**)に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
 - ●過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
 - 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
 - ●数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
- ●スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - ●タイヤ前後の土や雪を取り除く。
 - タイヤの下に木や石などをあてがう。
- ●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してください。



り洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。



- ●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。
- (i) 走行中、シート以外の場所への 乗車や車内の移動はしないでく ださい。



●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く 打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓から手や顔を出さないでください。



●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に 頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。 (B)ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(19)センターボックスや小物ケースのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれが あり危険です。

②ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。



●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、事故につながるおそれがあります。

②〕走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中は、ドアレバーを引かないでください。 ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡 につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になって いてもドアが開くため、注意してください。



5. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を 必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。



●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを 損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。 (P.178参照)

②ブレーキ警告灯が点灯したまま 走行し続けないでください。



- ●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
 - エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。 この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故 につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く 踏んでください。
 - ブレーキ警告灯がABS&ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのと き。
 - この場合、ABS&ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト(破裂)しても、あわてず対応してください。



- ●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。 急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
 - ハンドルが取られるとき。
 - 異常な振動があるとき。
 - ●車両が異常に傾いたとき。
- ●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。



- ●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。
- ⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音("キーキー"音)が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- ●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音 ("キーキー"という金属音)を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいた ことを運転者に知らせます。
 - 警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部 品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険 です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

- ●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



駐停車するときは、次の事項を必ず守っ てください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

- ●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- ●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が 無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - シフトレバーをオートマチック車では₽、マニュアル車では●か母に入れる。
 - パーキングブレーキをかける。
 - ■エンジンを停止する。
 - ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。



- ●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり 危険です。
- ●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
- ●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。
- ③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪 止めをしてください。(P.262参照)
- ●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



④停車中に空ぶかしをしないでく ださい。



●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。



- ●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
- ●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジン を停止してください。



●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。

また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



次の事項を必ず守ってください。 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸 化炭素(CO)が含まれており、お守 りいただかないと、重大な健康障害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。



●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

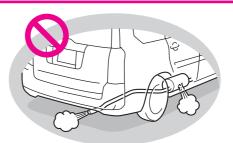
②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して 重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③排気管はときどき点検してください。



- ●排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行し ないでください。



●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが 閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきた と感じたら、次の処置をしてく ださい。

- ●すべての窓を全開にしてください。
- ●空調の内外気切り替えを外気導入側にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。
- ●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。







8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。



- ●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。 チャイルドプロテクターの使用方法は、P.108をお読みください。

8

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。



- ●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(P.138参照)
- ●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに 当たったり、腰部ベルトが腰骨にかから ないような小さなお子さまには、お子さ まの身体に合った子供専用シートを使用 してください。子供専用シートについて は、トヨタ販売店にご相談ください。



③ドア・ドアガラスなどはお子さ まに操作させないでください。



- ●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよ ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●チャイルドプロテクター(P.108)やウインドゥロックスイッチ(P.118)を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

4車から離れるときは、お子さま を車内に残さないでください。



- ●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●エンジン スイッチにキーをつけたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたままお子さまを車内に残さないでください。





シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢が取れ るように位置を調整してくださ い。



- ●正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、 シートベルト・SRSエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。 正しい運転姿勢については、P.128をお読みください。
- ②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。



●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる 重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション(座布団)などを入れないでください。



●正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

安全装備について

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。



- ●衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、 "カチッ"と音がして固定されたことを確認してください。
- ●ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑧リヤシートの前倒しについては次のことをお守りください。



- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり、確実に固定されている ことを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが 倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれ があり危険です。
- ●背もたれを倒すときやもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



子供専用シートについては、次の事項を 必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

- ①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。
- ●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート (ベビーシート) が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
- ●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。 幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹 部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧 迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。 幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。
- ②子供専用シート・チャイルドシート使用するときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。



- ●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、 子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につな がるおそれがあります。
- ●子供専用シート・チャイルドシートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

(3)子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてく ださい。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シ ートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれが あります。

■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

●運転席側リヤシートで、運転席の位置に より、安全に取りつけられる十分なスペ ースが確保できない場合は、子供専用シ ートを無理に取りつけず、助手席側リヤ シートに取りつけてください。



▲ 警告 助手席SRSエアバッグ



このシートに、ベビーシートを取り付けたり 後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。 また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり 膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に 至るおそれがあります。



- ■助手席SRSエアバッグ装着車では、助手席には、子供専用シートをうしろ向き に絶対に取りつけないでください。
- ●うしろ向きに取りつけた場合、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供 専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。 助手席サンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧くだ さい。
- ●やむを得ず、前向きに助手席に子供専用 シートを取りつける場合には、助手席S RSエアバッグがふくらんだときの衝撃 を少しでも緩和させるため、助手席シー トの前後位置調整を一番うしろにして取 りつけてください。

お守りいただかないと、助手席SRSエ アバッグがふくらんだとき、お子さまに 強い衝撃が加わり危険です。





④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。



お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3



シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害にお よぶか、最悪の場合死亡につながるおそ れがあります。

①車に乗るときは、全員がシート ベルトを正しく着用してくださ い。



シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

●背もたれを調整し、上体を起こし、 深く腰かけて座ること。



〈正しい着用のしかた〉



- ■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
- ●正しい姿勢については、P.128をお読みください。
- ■3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。
- ●3点式シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
- ●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



- ■アジャスタブルシートベルトアンカー (P.142) を確実に調整してください。
- ●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- ●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。



- ■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用 してください。
- ●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からず れていると、衝突したときに、腹部など に強い圧迫を受け危険です。



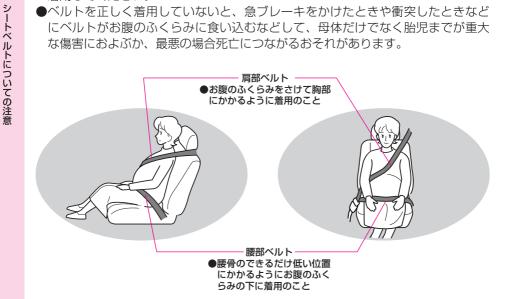
- ■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。
- ●2人以上で1本のシートベルトを着用す ると、シートベルトが衝撃を分散できな いばかりか、2人がぶつかり合うなどし て危険です。



②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- ●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様です が、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下 に着用するようにしてください。
 - また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように 着用してください。
- ●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなど にベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。 ただし、医師に注意事項をご確認ください。

安全装備について

④シートベルトは、ねじれやゆる みがなく確実にロックされた状態で着用してください。



正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

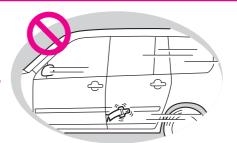
- ●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危 険です。
- ●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。
- ●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。



- ■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが "カチッ" と音が して確実にかみ合っていることを確認してください。
- ●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。



⑤シートベルトを損傷させたり、 損傷したシートベルトは使用し ないでください。



損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが 十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれが あります。

- ●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。
- ■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに 交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベル トは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなく なります。
- ●このまま使用すると、衝突のときなどに ベルトが切れる可能性があります。また、 正常に働かず、シートベルトが十分な効 果を発揮せず危険です。
- ●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。



3

- ■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。
- ●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの 取りつけ、取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはし ないでください。
- ●プリテンショナー付シートベルトを不適 切に扱うと、正常に作動しなくなるおそ れがありますので、修理は必ずトヨタ販 売店で行ってください。



- ■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。
- ●作動するとSRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合 はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換して ください。
- ■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでくださ い。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。
- ●シートベルトの性能が低下し、衝突した ときなどに、シートベルトが十分な効果 を発揮せず危険です。
- ●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を 使用し、乾くまでシートベルトを使用し ないでください。



⑥リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないで ください。

押し込んだままの状態で使用すると衝突したときなどに、シートベルトが十分な 効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり ます。



SRSエアバッグについては、次の事項 を必ず守ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトの正しい着用については、P.138をお読みください。

- ■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。
- ●SRSエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

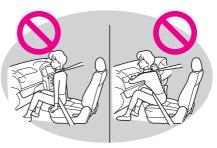
《運転者のかたは》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。



《助手席乗員のかたは(助手席SRSエアバッグ装着車)》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整・正しい姿勢については、P.128をお読みください。





- ■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状 態で走行しないでください。
- ●SRSエアバッグがふくらんだときにも のが飛ばされ顔に当たったり、SRSエ アバッグの正常な作動がさまたげられ危 険です。



- ■助手席SRSエアバッグ装着車では、お子さまを助手席SRSエアバッグの前に 立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。
- ●SRSエアバッグがふくらんだときに強 い衝撃を受け危険です。



②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

不適切な作業を行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。



●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグが誤作動し危険です。



●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

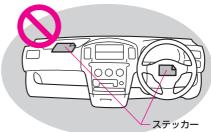


安全装備について

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふく らみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグの展開部をカバーやス テッカーなどで覆わないでください。 SRSエアバッグが正常に作動しなくな るなどして危険です。



●助手席SRSエアバッグ装着車では、イ ンストルメントパネルやダッシュボード の上に芳香剤などのものを置いたり、傘 などを立てかけないでください。助手席 SRSエアバッグが正常に作動しなくな ったり、SRSエアバッグがふくらんだ ときに飛ばされるなどして危険です。



- ●無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を あたえるおそれがあり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線 機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●車両前部にグリルガードやウインチなど を装着する場合は、トヨタ販売店にご相 談ください。車両前部の改造をすると、 SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃 がかわり、SRSエアバッグが誤作動す るなどして危険です。



(4)SRSエアバッグ展開部を強く たたかないでください。



●ステアリングパッド(運転席エアバッグ)、インストルメントパネル上部(助手席 エアバッグ)など、SRSエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加え ないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷 害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤SRSエアバッグがふくらんだ 直後は、SRSエアバッグ構成 部品に触れないでください



●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあ り危険です。



EBD付ABS&ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。 お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①EBD付ABS&ブレーキアシストを過信しないでください。

●EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

EBD付ABS&ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- EBD付ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象 **が起こった場合は、効果を発揮できません。
- ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。
- E B D 付 A B S は制動距離を短くするための装置ではありません。 次の場合などは、 E B D 付 A B S のついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
 - ●砂利道、新雪路を走行しているとき。
 - タイヤチェーンを装着しているとき。
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
 - ●凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。
- ●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。



オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

(1)オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーが (P・) 以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。



■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、 エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンと いいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。



- ●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●後退するときは、身体をひねった姿勢と なるため、ペダルの操作がしにくくなり ます。ペダル操作が確実にできるよう注 意してください。
- ●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。



③ブレーキペダルはアクセルペダ ルと同じ右足で操作してくださ い。



●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるお それがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

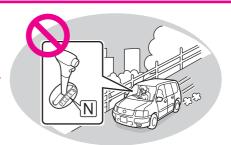
●安全のためシフトレバーは車輪が固定される**●**にして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- ●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、 よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- ●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が 急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. オートマチック車についての注意

⑥走行中はシフトレバーを〇に入 れないでください。



- ●▲にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながる おそれがあり危険です。
- ●⑩にしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイル の潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをPに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故に つながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをBに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマ チックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

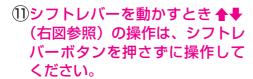
9停車中は、空ぶかしをしないで ください。

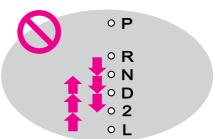


●シフトレバーが②・Q以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれ があり危険です。

10駐車するときは、シフトレバーを**②**に入れてください。

● P以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。





●いつもレバーボタンを押して操作していると意に反して**②**・**③**または**③**に入れてしまい、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫坂道などでは、シフトレバーを● (または❷●)に入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様に**⑤**に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

13その他にも以下の点に注意してください。

- ●少し後退したあとなどは、シフトレバーが**®**にあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐ**®**にもどすよう習慣づけましょう。
- ●切り返しなどでシフトレバーを®から®、®から®と何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。



4WD車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。



●この車の4WD(Vフレックスフルタイム4WD)は、オンロード専用です。 オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性 に寄与することを目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。



●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車 輪が宙に浮いているときは、む やみに空転させないでください。



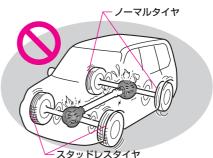
●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつき などの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につな がるおそれがあり危険です。

(4)渡河などの水中走行はしないで ください。



- ●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水 を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがありま
- ●万一、水中につかってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点 検してください。
 - ブレーキの効き具合。
 - ■エンジン・トランスミッション・トランスファー・デフなどのオイル量および 質の変化。(白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要 です。)
 - プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑤タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。



- 〈混在使用の例〉
- ●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン(溝模様)のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- ●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品(ディファレンシャルギヤ)に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ●4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - ●空気圧が指定値からはずれているとき。
- ●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。(P.275参照)
- ●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。(P.314参照)



点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

点検整備の詳細については「メンテナン スノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください



- ●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーター・リザーブタンク (補助タンク) など高温部には触れないでください。
- ●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。
- ③エンジンルーム内に水をかけないでください。



●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火 災につながるおそれがあり危険です。



4 車の清掃をするときは、車内に 水をかけないでください。



- ●ラジオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原 因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意して ください。
- ●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、さびて ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- ⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しな いでください。
- ●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。
- (7)エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシ ャー液を補給しないでください。
- ●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかる と出火するおそれがあり危険です。
- (8)エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布 を置き忘れていないことを確認してください。
- ●点検や清掃に使用した丁具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故 障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につな がるおそれがあり危険です。
- (9) 雷球を交換するときは、電球が冷えてから行ってください。
- ●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してくださ い。やけどなどをするおそれがあり危険です。



タイヤについては、次の事項を必ず守っ てください。

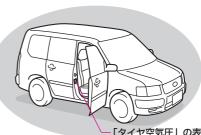
お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

- ●タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
- ●タイヤは以下の点について点検してください。
 - タイヤの空気圧。
 - タイヤのき裂・損傷の有無。
 - タイヤの溝の深さ。
 - ●タイヤの異常な摩耗。(極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほ かのタイヤと著しく異なるなど。)

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが 冷えている状態で指定空気圧に 調整してください。



「タイヤ空気圧」の表

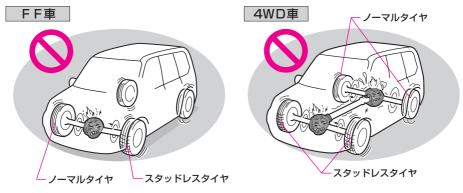
- ●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の 表、またはP.314で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。 指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩 耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 ※によりタイヤがバ 一スト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常 点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていること を点検してください。
 - ※ 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。

 \triangle



③タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着して ください。

- ●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一 トレッドパターン(満模様)のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著し いタイヤを混ぜて装着しないでください。
- ●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ(4WD車の場合は前後左右タイヤ)で常時 異常な回転差が発生し、駆動系部品(ディファレンシャルギヤ)に無理な力がか かり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪 の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。



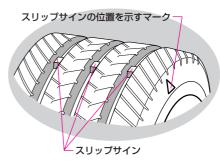
〈混在使用の例〉

- ●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるのでタイヤ の空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ●4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- ●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを 行ってください。(P.275参照)
- ●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しない でください。(P.314参照)
- ●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能(燃 費・車両の安定性・制動距離など)が十分に発揮できないばかりでなく、前後左 右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場 合があり、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。

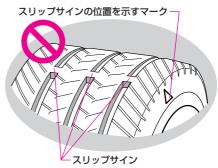
メンテナンスについて

(4)摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

- ●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリ ップサイン(摩耗限度表示)が出ている タイヤをそのまま使用すると、制動距離 が長くなったり、雨の日にハイドロプレ ーニング現象※1により、ハンドルが操作 できなくなったり、タイヤがバースト (破裂) したりして、思わぬ事故につな がるおそれがあり危険です。スリップサ インが現れたら、すみやかに正常なタイ ヤと交換してください。
- ※1水のたまった道路を高速で走行すると、タ イヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが 路面から浮いてしまい、ハンドルやブレー キが効かなくなる現象。
- ※2例のイラストは説明のためであり、実際と は異なります。



〈例:スリップサインが出ていない状態〉*2



〈例:スリップサインが出ている状態〉*2

(5)タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着し ないでください。

- ●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振 動を感じることがあります。
 - また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タ イヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - 走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正 常なタイヤに交換してください。
- ●異常があるタイヤを装着していると、車の性能(燃費・車両の方向安定性・制動 距離など)が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれが あり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあり ます。



(6) 冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- ●指定サイズのタイヤを使用してください。
- ●指定空気圧に調整してください。
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないで ください。

(7)タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- ●タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度 以下で走行してください。
- ●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンド ルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わ ぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。

また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転し てください。

(8)タイヤを交換したときは、ホイ ール取りつけナットが確実に締 まっていることを確認してくだ さい。



- ●確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、 ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナット を締めてください。
 - 締めつけトルク: 103N·m {1050kgf·cm}
- ●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。 ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスク ホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤ がはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホ イールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨ 夕販売店などで点検を受けてください。
- ●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても、十分に締まらず、デ ィスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(10)段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してくださ U10

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイール が損傷する場合があります。

印歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

(12)走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない でください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交 換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあり危険です。



バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。 お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(1)日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL (下限)以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や 爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、 液量が少ないときは補給してください。

- ②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。(P.335参照)
- ●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、 充電中は、バッテリーに近づか ないでください。



●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。



4)火気をバッテリーに近づけないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受 けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、 正しい位置にクランプを取りつ け、ナットを確実に締めつけて ください。



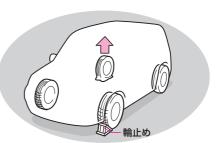
●確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショ ートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。



ジャッキアップについては、次の事項を 必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平 らな場所に車を止め、対角の位 置にあるタイヤに必ず輪止めを してください。また、パーキン グブレーキをしっかりかけてく ださい。



- ●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売 店にご相談ください。
- ●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、 絶対にもぐらないでください。



- ●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

4

メンテナンスについて

- ③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷 したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合 死亡につながるおそれがあります。
- ●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
- ●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置 (P.330) にかかっていることを必ず確認してください。
- ●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- ●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業 してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



1. オーバーヒートに ついての注意 オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。 お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネット から蒸気が出ているときは、蒸 気が出なくなるまでボンネット を開けないでください。



●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターやリザーブタンク (補助タンク) が熱いときはラジ エーターキャップ・エア抜きバ ルブを開けないでください。



- ●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターやリザーブタンク(補助タンク)が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包み、ゆっくりと開けてください。



次の事項を必ず守ってください。 お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害につながるおそれがあり危険で す。

2. 万一の事故のときの注意

- ①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。
- ●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。
- ②けん引中に、急発進などけん引 フックやロープに大きな衝撃が 加わるような運転をしないでく ださい。



- ●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。
- ③けん引中にエンジン スイッチからキーを抜いたり、エンジン スイッチを "LOCK"にしないでください。
- ●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。また、"LOCK"だとキーが抜けるおそれがあります。



④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。



●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や 身体に向けると、炎でやけどするなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそ れがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前 に燃料がもれていないか確認し てください。



●車の下の路面などを確認し、液体のもれ(エアコンの水以外)が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。

この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

その他の注意

次の事項を必ず守ってください。 お守りいただかないと、思わぬ事故や重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

(1)違法改造は絶対にしないでください。

- ●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- ●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。 異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、 違法改造になることがあります。
 - ●電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。 電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるお それがあり危険です。
 - フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム(含む透明フィルム)などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、 違法改造につながるおそれがあります。
- ②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、 必ず閉めておいてください。



●開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするお それがあります。また、使用していないときは閉めておいてください。

④ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。



- ●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- ⑤熱線反射ガラス、またはプライバシーガラスなどの色つきガラス に塩化ビニール製の吸盤やシールなどをつけないでください。
- ●塩化ビニール製品に含まれる成分により、ガラスの変色、色抜けの原因となります。

⑥ ラゲージルームには人を絶対に 乗せないでください。



- ●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ⑦内装(特にインストルメントパネル)の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
- ●インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⑧バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。



- ●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。手を挟んだり、ダンパーステーが破損してはずれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

- ●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ 事故につながるおそれがあり危険です。
- ●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- (10)ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換時に、取りはずした 電池や部品を(とくにお子さまが)飲み込まないようにご注意く ださい。
- ●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①アルミボディは磁石で固定するアクセサリーを取りつけることができません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは 取りつけることができません。

②走行中はインパネテーブルを使用しないでください。



- ●シフトレバー操作のさまたげになったり、テーブル上のものが落下するなどして、 思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- (3) 格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。
- ●足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。
- (4) 車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。
- ●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに 飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危 険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店に ご相談ください。
- (1) エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。
- ●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。
- (⑥シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、 ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。
- ●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- ①メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないで ください。
- ●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形や ひび割れを起こすおそれがあります。
- ●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
- ●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

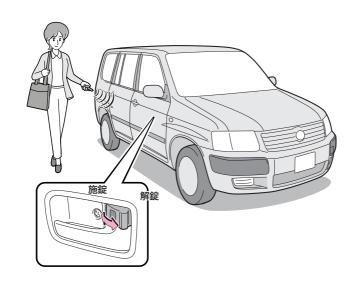
基本操作早わかり

(はじめてこの車にお乗りになるかたへ)

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめて お乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装 備品を簡単に説明しています。

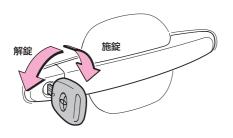
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

冬邨の問問	86
	88
シートベルトの着用	90
運転オスとキけ	92
·—···	
警告灯	96
スイッチ類の取り扱い	98
	100
エアコン・フンオ	

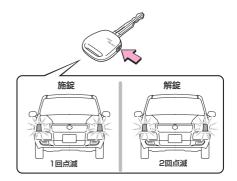


ドアの施錠と解錠

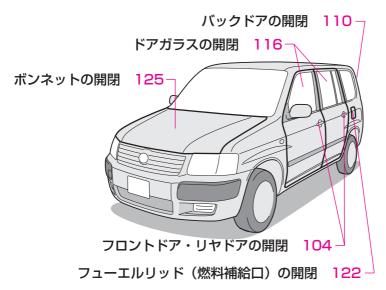
キーで



リモコンスイッチで



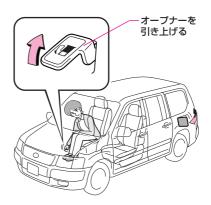
● 各部の開閉に関する詳しい紹介は ■



ドアガラスの開閉

フューエルリッド (燃料補給口) の開け方







運転席の調整機能 (その1)

前後位置



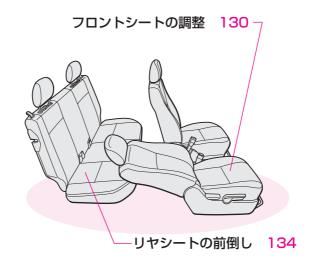
背もたれの角度



シートの上げ下げ

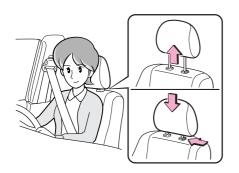


● シートに関する詳しい紹介は



運転席の調整機能 (その2)

ヘッドレスト





着用のしかた

7 ベルトを引き出します。

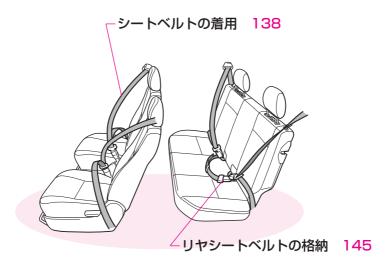


2 プレートをバックルに差し込みます。

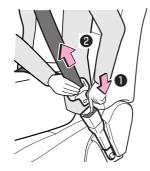


- "カチッ"という音がするまで 差し込みます。
- 2アンカーの高さを調整します。

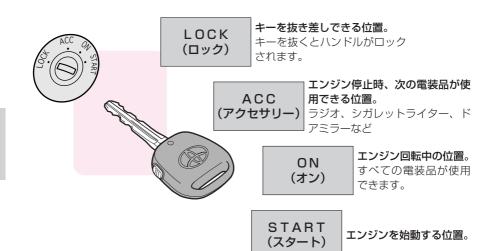
シートベルトに関する詳しい紹介は



はずし方



- ●バックルのボタンを押します。
- ②ベルトを巻き取らせます。



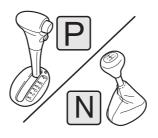
エンジンのかけ方

しっかり踏み込み ます。

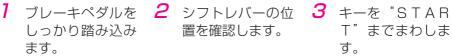


●パーキングブレーキ がかかっていること を確認します。

置を確認します。



オートマチック車で では**®**に入れます。 マニュアル車ではク ラッチペダルをいっ ぱいまで踏み込みま す。





クラッチスタートシステム 252

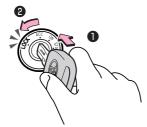
マニュアル車

サクシードのマニュアル車は、 クラッチペダルをいっぱいまで 踏み込まないとエンジンが かかりません。



キーの抜き方

オートマチック車はシフトレバーを **②**にします。



- ●キーを押し込んで
- 2 "LOCK"にまわし引き抜きます。

ハンドルロックの解除



- ●ハンドルを動かしながら、
- **②**キーをまわします。



シフトレバーの動かし方(発進時の場合)

オートマチック車

しっかり踏み込み ます。



●パーキングブレーキ がかかっていること を確認します。

1 ブレーキペダルを 2 シフトレバーボタ ンを押してPから 操作します。

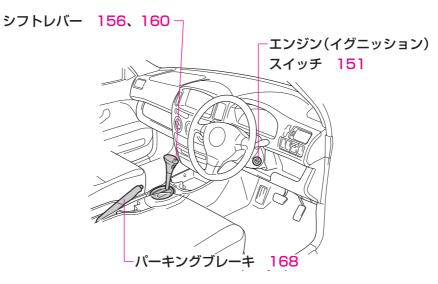


マニュアル車



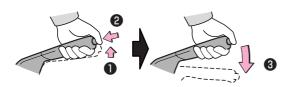
クラッチペダルをいっ ぱいに踏み込んで操作 します。

● 運転装置に関する詳しい紹介は ■



パーキングブレーキの使い方

もどし方



ブレーキペダルを踏んで、

- ●レバーを引き上げながら
- ②ボタンを押し
- **3**いっぱい下までおろします。

かけ方



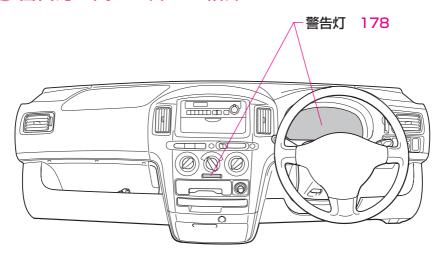
レバーをいっぱい引き上 げます。



警告灯が点灯、または点滅したままのときは

	警告灯	警告理由
	半ドア警告灯	いずれかのドアが確実に閉まっていません。
	運転席シートベル ト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER 🐇	助手席シートベル ト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用してい ません。
((!))	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯し ないときは、ブレーキ液量の不足です。
	燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。 (約8L以下で点滅)
- +	充電警告灯	充電系統の異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は



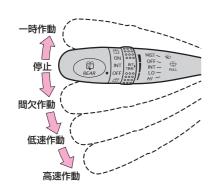
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

	警告灯	警告理由
*	SRSエアバッグ/ プリテンショナー 警告灯	SRSエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
(ABS)	A B S & ブレーキ アシスト警告灯	ABS&ブレーキアシストシステムの異常 です。
# <u></u>	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
9	油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
■	高水温警告灯 (赤色)	オーバーヒートのおそれがあります。

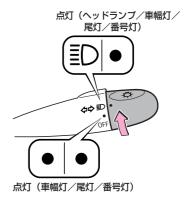


夜間や雨天時などの走行

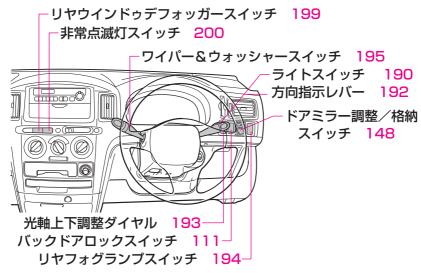
フロントワイパーの使い方



ランプのつけ方



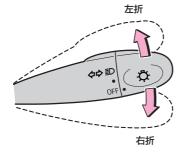
■ スイッチに関する詳しい紹介は



※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

他車への合図

方向指示



非常点滅灯





エアコン・ヒーターの使い方

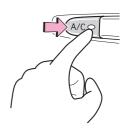
風量を調整します。
 温度を調整します。



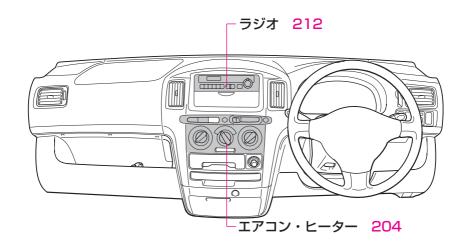


3 エアコン装着車

エアコン(冷房・ 除湿機能)を作動 させたいときは、 エアコンスイッチ をONにします。



● エアコン・ラジオに関する詳しい紹介は



ラジオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

電源入、切





ラジオを聞くには

AM・FM放送の切り替え



放送局の設定





運転装置の取り扱い

ドア・ドアガラスなどの開閉	104
フロントドア・リヤドアの開閉 104	
バックドアの開閉 110	
ドアガラスの開閉 116	
ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方 120	
フューエルリッド(燃料補給口)の開閉 122	
ボンネットの開閉 125	
シートの調整	128
正しい運転姿勢 128	
フロントシートの調整 130	
リヤヘッドレストの脱着 133	
リヤシートの前倒し 134	
シートベルトの着用	138
シートベルトの正しい着用 138	
3点式シートベルトの着用のしかた 141	
2点式シートベルトの着用のしかた 144	
ハンドル・ミラーの調整	146
ハンドルの調整 146	
インナーミラーの調整 147	
ドアミラーの調整 148	
エンジンのかけ方	151
エンジン (イグニッション) スイッチの使い方 1	
エンジン始動の手順 152	

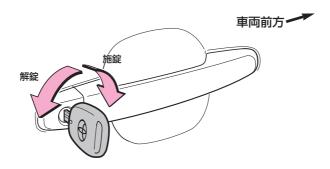
シフトレバーの使い方	156
オートマチック車の使い方 156	
マニュアル車の使い方 160	
オートマチック車の運転のしかた	162
発進のしかた 162	
走行のしかた 164	
停車・駐車のしかた 166	
パーキングブレーキの使い方	168
パーキングブレーキの使い方 168	
メーター・表示灯・警告灯の見方	170
メーター 170	
表示灯 174	
警告灯 178	
スイッチの使い方	190
ライトスイッチ/方向指示レバーの使い方 190	
ヘッドランプの光軸上下調整 193	
リヤフォグランプスイッチの使い方 194	
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方 195	
リヤウインドゥデフォッガー	
(曇り取り) スイッチの使い方 199	
非常点滅灯スイッチの使い方 200	
ホーンの使い方 201	

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドア・リヤドアの開閉

→ キーでの施錠・解錠のしかた

フロントドア



前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

ドアロックスイッチ付き車の運転席ドアでは、すべてのドア (バックドアを含む) の施錠・解錠ができます。

知 知 識

航空機内へのワイヤレスドアロックのリモコンの持ち込みについて

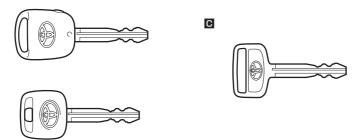
航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。 また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。 スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがありま す。

知識

В

キーについて

- ●キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止などに使用します。
- - ●ワイヤレスドアロックのリモコンの操作についてはP.120をお読みください。
 - **A**(ワイヤレスドアロックリモコン付き)



- ●キーを作るときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
- ●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相 談ください。

キーナンバープレートについて

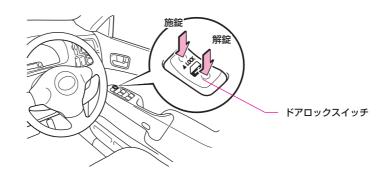
お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。 /--キーナンバー

●キーナンバープレートは、車両以外の場所に大切に保管してください。

●万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーを作ることができます。

ドアロックスイッチでの 施錠・解錠のしかた★

運転席ドア



スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。

●すべてのドア(バックドアを含む)の施錠・解錠が同時にできます。

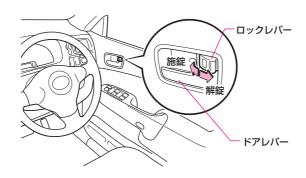


作動条件について

- ●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
- ●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

□ ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠



ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた



フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。



便利機能について

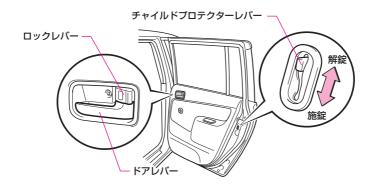
運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

ワイヤレスドアロックのリモコン での施錠・解錠のしかた★

P.120の「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」をお読みください。

● チャイルドプロテクターの使い方 |

リヤドア



チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。



チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて、開けます。

$\underline{\hat{\Lambda}}$

警告

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- ●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中は、ドアレバーを引かないでください。 ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につなが るおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開く ため、注意してください。
- ●お子さまにドアの操作をさせないでください。
 - ●閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジン スイッチが " LOCK " または " ACC " のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが "ピーピー、ピーピー" と鳴ります。キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- ●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- ●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- ●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

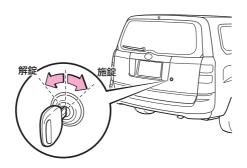
〈乗車中、解錠している場合〉

●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、施錠することが法律で義務づけられています。 また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かな いようにしてください。

バックドアの開閉

→ キーでの施錠・解錠のしかた



左にまわすと解錠、右にまわすと施錠されます。

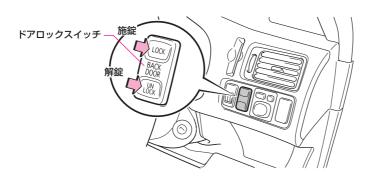
ワイヤレスドアロックのリモコンでの 施錠・解錠のしかた★

P.120の「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」をお読みください。

● ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★ ■

エンジン スイッチの位置に関係なく、バックドアの施錠・解錠ができます。 (P.106参照)

バックドアロックスイッチでの 施錠・解錠のしかた★



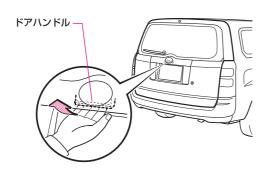
スイッチのLOCK側を押すと施錠、UNLOCK側を押すと解錠されます。



作動条件について

- ●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
- ●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

● 開閉のしかた ■



■開け方

ドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げます。

- ●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
- ●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

7 バックドアをおろします。

2 下端を押さえつけ、ロックします。

<u> 企業</u>

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

- ●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。 走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に 閉まっていないと、走行中にバックドが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危 険です。
- ●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ●お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
 - ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射 病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- ●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
 - バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
 - ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
 - ◆人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



● 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。



●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部(伸縮部)に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。



- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサ リー用品を取りつけないでください。バッ クドアの重量が重くなると、開けたときに、 ステーが支えきれなくなるおそれがありま す。
- ●ステーに手をかけて乗りおりしたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、バックドアが開閉できなくなロッド部るおそれがあります。

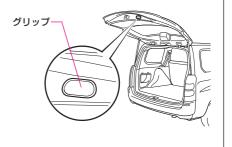




便利機能について

バックドアグリップ

バックドアをおろすときに便利です。

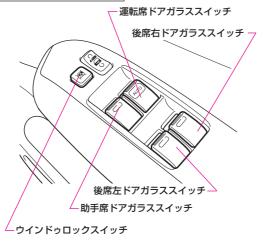


ドアガラスの開閉

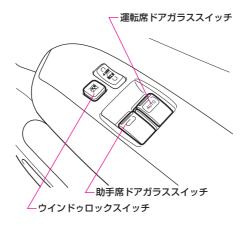
パワーウインドゥの使い方★ □

■運転席スイッチ

前・後席パワーウインドウ装着車

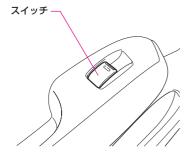


前席パワーウインドウ装着車

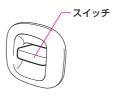


運転席スイッチで、パワーウインドゥを装着したすべてのドアガラスの開閉 が行えます。

■助手席スイッチ



■後席スイッチ ★



自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。 スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■運転席ドアガラスの自動開閉のしかた

運転席ドアガラス

- ●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。 途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
- ●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。 途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。



作動条件について

エンジン スイッチが "ON" のとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウイ ンドゥロックスイッチがONになっているときは開閉しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガ ラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷物がドアガラスに加わると、挟 み込み防止機構が作動することがあります。

■ ウインドゥロックスイッチの使い方★ 1

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ONとOFFに切り替わります。 スイッチをONにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉 しません。

ウインドゥロックスイッチ		運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ON		運転席ドアガラスの開閉 ができます。	開閉できません。
OFF		すべてのドアガラスの開 閉ができます。	開閉できます。



走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

- ●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。 とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけを してください。お守りいただかないと、重大な傷害 におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。
- ●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まな いように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な 傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないと きは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

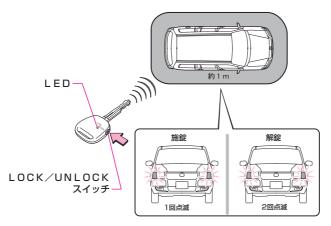


運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

- ●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。
- ●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方 *

ドアの施錠・解錠のしかた」



LOCK/UNLOCKスイッチを押すごとに全ドアが施錠・解錠され、作動が完了すると、非常点滅灯が点滅(施錠は1回、解錠は2回)します。

- ●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- ●スイッチを押すと、LEDが点灯します。
- ●スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

ワイヤレスドアロックリモコンを正常に作動させるために、以下の点にご注意ください。

- ●ワイヤレスドアロックリモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。
 - ●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
 - ◆分解しないでください。
 - ●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - 水にぬらさないでください。
- ●ワイヤレスドアロックリモコンは、微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
 - ●近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき。
 - ●無線機、携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
 - リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき。
 - 複数のリモコンが近くにあるとき。
 - リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
 - 近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき。

-**★**』知 識 ·

航空機内へのリモコンの持ち込みについて

航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

作動条件について

- ●リモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させる ためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
- ●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、 受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあり ます。
 - ●金属を含有するウインドゥフィルム。
 - その他の金属物。(トヨタ純正品以外のアンテナなど)
- ●LOCK/UNLOCKスイッチは、エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき、 または、いずれかのドアが開いているときは作動しません。
- ●LOCK/UNLOCKスイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。 スイッチを押しなおしてください。
- ●LOCK/UNLOCKスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはLEDが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。P.276の「ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換」をお読みください。(トヨタ販売店でも交換できます。)

紛失について

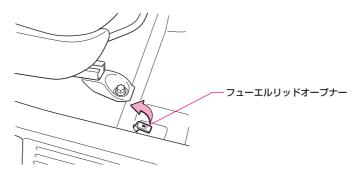
リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用個数について

リモコンは、同じ車両で最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご 相談ください。

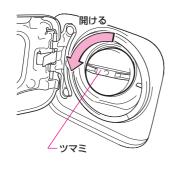
フューエルリッド(燃料補給口)の開閉

● フューエルリッドの開閉



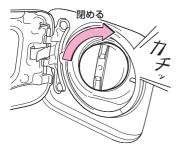
運転席右下にあるフューエルリッドオープナー(▶)を引くと開きます。 閉めるときは、フューエルリッドを手で"カチッ"と音がするところまで閉 めます。

● フューエルキャップの開閉



■開けるときは

キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。



■閉めるときは

キャップのツマミを持ち、"カチッ"と音が するまで右にまわして閉めます。

↑ 警告

燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

- ●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火し て、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ■エンジンは必ず停止してください。
 - ●車のドア、窓は閉めてください。
 - ●タバコなど火気を近づけないでください。
 - ●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体な どの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びている と、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
 - ●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けて ください。

気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹 き返すおそれがあります。

フューエルキャップを少しゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、それ以 上開けないでください。

その音が止まってからゆっくり開けてください。

- ●給油中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください(再 帯電のおそれがあります)。
- ●給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し 給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、"カチッ"と音がするまで右にまわし、 確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- ●その他、スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない。 場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
- ●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含 んでいるものもありますので、ご注意ください。



指定以外の燃料を使用しないでください。

- ●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- ●指定以外の燃料(粗悪ガソリン・灯油・アルコール系燃料など)を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- ●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。



フューエルリッドの位置について

フューエルリッド(燃料補給口)は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

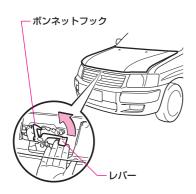
燃料タンク容量は約50 L です。

ボンネットの開閉

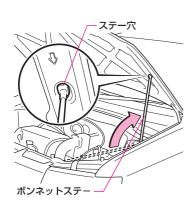




7ボンネットオープナーを引きます。
運転席インストルメントパネル右下に
あるボンネットオープナーを引くと、
ボンネットが少し浮き上がります。



2 ボンネットフックをはずします。 ボンネットのすき間に手をいれ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。



3 ボンネットステーを差し込みます。 ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

- 7 ボンネットステーをはずします。 ボンネットステーをはずし固定します。
- **2** ボンネットを閉めます。 ボンネットを約20cm~25cmの位置から静かに落として閉めます。
- **3** ロックされていることを確認します。 ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。



走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●ボンネットがしっかりロックされていることを確認 してください。ロックせずに走行すると、走行中に ボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害に つながるおそれがあります。
- ●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないよう に注意してください。重大な傷害を受けるおそれが あり危険です。





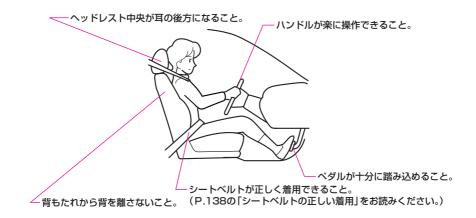
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

MEMO

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。



⚠ 警告

走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- ●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、 運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあ り危険です。
- ●フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、 思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となりま す。
- ●背もたれと背中の間にクッション(座布団)などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

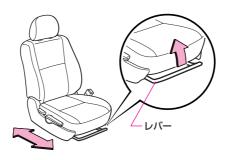


シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

- ●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- ●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- ●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム(シートの土台部分)などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意してください。

フロントシートの調整

●前後位置調整のしかた■



レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

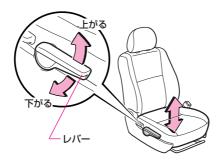
● リクライニング調整のしかた



レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

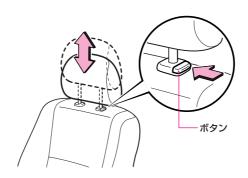
●上下調整のしかた■

運転席



シートを上げるときは上に、シート下げるときは下に、レバーを何度か動かして調整します。

ヘッドレストの上下位置調整のしかた



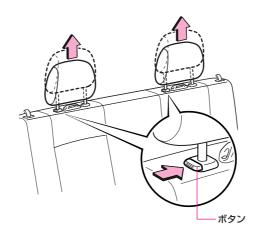
- ●上げるときは、そのまま引き上げます。
- ●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- ●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ●ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、"カチッ"と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤヘッドレストの脱着★



- ●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。
- ●取りつけるときは、そのまま差し込みます。

↑ 警告 ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝 撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●ヘッドレストはリヤシート専用です。取りつけるときは、"カチッ"と音がして固定され たことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取りつけると、固定すること ができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤシートの前倒し

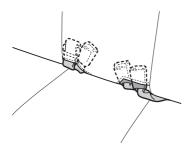
●前倒しするときは



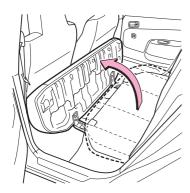
- 車を安全な場所に駐車し、しっかりと パーキングブレーキをかけます。
- 2 シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。 背もたれを倒すときに巻き込まれないように、両側シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。



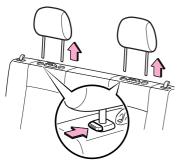
3 フロントシートを前方に移動します。 クッションを起こすときに当たらない ように、フロントシートを前方に移動 させます(P.130参照)。



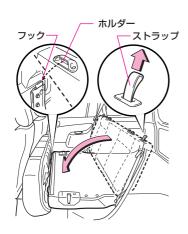
4 リヤシートベルトを格納します。 リヤシートベルトをリヤシートの格納 ポケットに格納します。



5 クッションを引き起こします。 クッションと背もたれの間に手を入れて、クッションを引き起こします。



6 ヘッドレスト付き車はヘッドレストをはずします (P.133参照)。



7 背もたれを倒します。

シート両端のストラップのいずれか片 方を引いてロックをはずし、背もたれ を前方に倒します。

●背もたれのホルダーがクッションの フックに確実に固定されていること を確認してください。

●もどすときは

- **7** シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認します (P.134参照)。
- 2 背もたれを起こして固定します。

背もたれのホルダーをクッションのフックからはずし、背もたれを起 こして固定します。

- ●確実に固定されていることを確認してください。
- 3 クッションをもどします。
- 4 ヘッドレスト付き車はヘッドレストを取りつけます。
- 5 シートベルトのプレートをベルトハンガーからはずします。



小警告

走行中はシートの操作をしないでください。

- ●走行中はリヤシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したとき などに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをか けたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険で す。
- ●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してく ださい。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあ り危険です。
- ●背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認 してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージ ルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●シートベルトが背もたれやクッションに挟まれていないことを確認してください。シート ベルトが挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な力を発揮できず、生 命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



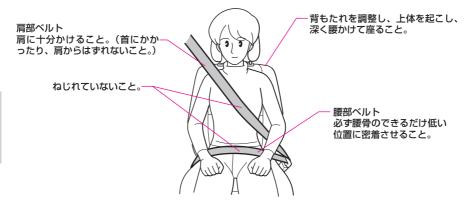
背もたれを倒すときは、指などを挟まないように注意して ください。

- ●背もたれを倒すときは、フックとホルダーの間に指などを挟み、けがをするおそれがあり ますので、注意してください。
- ●リヤシートを倒して荷物を積むときは、必ずシートクッションを起こし、背もたれを倒し てから積んでください。背もたれだけを倒して荷物を積むと、シートを破損するおそれが あります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



▲ 警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用すると きは必ず次のことをお守りください。

- ●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむSRSエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと 衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の 場合死亡につながるおそれがあります。
 - ●シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。 正しい姿勢については、P.128をお読みください。
 - ●3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
 - ●シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したとき などに衝撃力を十分に分散させることができません。
 - ●シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
 - シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - ●ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用すると きは必ず次のことをお守りください。

- ●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが 傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。
- ●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いている と、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。 (ただし、医師に注意事項をご確認ください。)
 - 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。

また、肩部ベルトは確実に肩に通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。

- ●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください (ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

必ずシートベルトを着用してください。また、着用すると きは必ず次のことをお守りください。

- ●シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

3点式シートベルトの着用のしかた

● シートベルトの脱着のしかた

リヤシート中央席を除く



7 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。

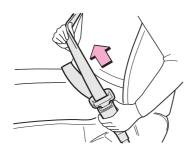
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。

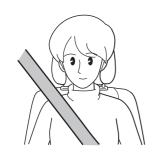
プレートを "カチッ" と音がするまで バックルに差し込みます。

フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯(P.188)が消灯したことを確認してください。



3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ 低い位置にかかるようにし、肩部ベル トを引き、腰部に密着させます。



4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。

このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。



5 フロントシートでは、ベルトの高さを 調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。

調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- ●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

"カチッ"と音がし、確実に固定されていることを確認します。



6 はずすときは、バックルのボタンを押 します。



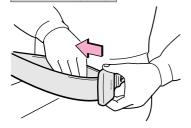
シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お 守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発 揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり ます。

- ●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるよう できるだけ高い位置に調整してください。
- ●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

2点式シートベルトの着用のしかた

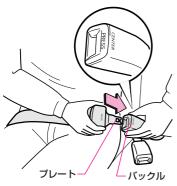
● シートベルトの脱着のしかた

リヤシート中央席



イルトの長さを調整します。

プレートを図のようにしてベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。



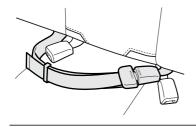
2 ベルトを結合します。

ベルトにねじれがないようにプレートを"カチッ"と音がするまでバックルに差し込みます。



3 ベルトを密着させます。

ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ 低い位置に密着させます。



4 はずすときは、バックルのボタンを押してはずすします。

はずしたベルトは、バックルにはめて おいてください。

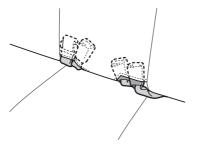


リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。押し込んだままの状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



便利機能について

シートベルトを使用しないときは、次のように格納しておくことができます。



ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整



レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。

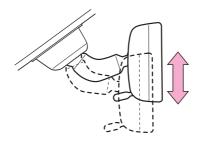
♠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- ●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につ ながるおそれがあり危険です。
- ●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が 不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

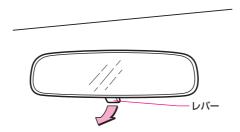
インナーミラーの調整

●上下位置調整のしかた



ミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切り替えのしかた



通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。 後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。



走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ 事故につながるおそれがあり危険です。



ミラーを調整するときは、開いたサンバイザーに当たらないような位置に 調整してください。

ドアミラーの調整

●鏡面角度調整のしかた

電動式



7 調整する側のメインスイッチを押します。

R…右側ドアミラー L…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチでミラーの角度を調 整します。

3 メインスイッチを中立にします。 調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

手動式

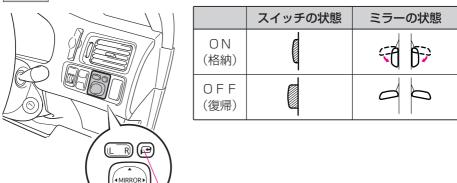
ドアミラー全体を手で調整します。

調整したあとは、運転席に座り後方確認が十分にできるか確認してください。



○ 格納のしかた

電動式



格納スイッチを押すごとに、ON(格納)とOFF(復帰)に切り替わりま す。エンジン スイッチが "LOCK" のときは、手で格納・復帰させるこ ともできます。

格納スイッチ

手動式

ドアミラーを手で後方に倒して格納します。

走行前には、運転席から後方確認が十分にできる位置まで確実にもどしてく ださい。



小警告

走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

- ●走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそ れがあり危険です。
- ●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思 わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟ん でけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

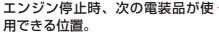
知知識

作動条件について

- ●エンジン スイッチが "ACC" または "ON"のとき使用できます。
- ●ドアミラー格納作動中に、エンジン スイッチを "LOCK"にすると、格納作動が停止 します。
- ●次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもど ります。
 - ●エンジン スイッチが "ACC" または "ON"のとき。
 - ●手動で操作したあとに、エンジン スイッチを " A C C " または " O N " にしたとき。
- ●格納スイッチがOFF(復帰)の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジ ン スイッチを " ACC " または " ON " にしても、ミラーは復帰しません。一度格納 スイッチをON(格納)にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてくださ W)

エンジンのかけ方

エンジン(イグニッション)スイッチの使い方



ラジオ、シガレットライター、ド アミラーなど エンジン回転中の位置。

すべての電装品が使用できます。

キーを抜き差しできる位置。

キーを抜くと、ハンドルが ロックされます。

エンジンを始動する位置。



■ "LOCK " から "ACC " にまわすとき ■

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く 左右にまわしながらキーをまわします。

キーを押しながらまわします。

オートマチック車

シフトレバーを**P**にしてから、キーを押しながらまわします。



エンジン停止時は、エンジン スイッチを " O N " または " A C C " のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

エンジン始動の手順

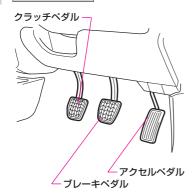


_ ブレーキペダル

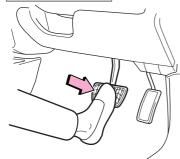
7 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢 (P.128) が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

マニュアル車

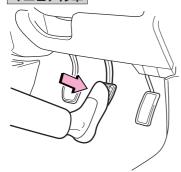


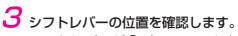
オートマチック車

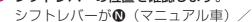


2 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

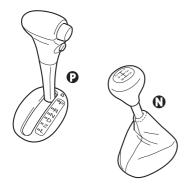
マニュアル車



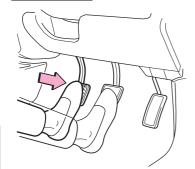




- **❷** (オートマチック車) にあることを 確認します。
- ●オートマチック車は**®**でも始動できますが、安全のため**®**で行ってください。



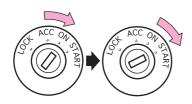
マニュアル車



4 マニュアル車はクラッチペダルを踏みます。

クラッチペダルをしっかり踏みます。

●クラッチペダルをいっぱいまで踏み 込まないと、エンジンがかからない ようになっています。



5 エンジンを始動します。

エンジン スイッチを " ON " にし、アクセルペダルを踏まずにエンジン スイッチを "START" にまわします。

↑ 警告

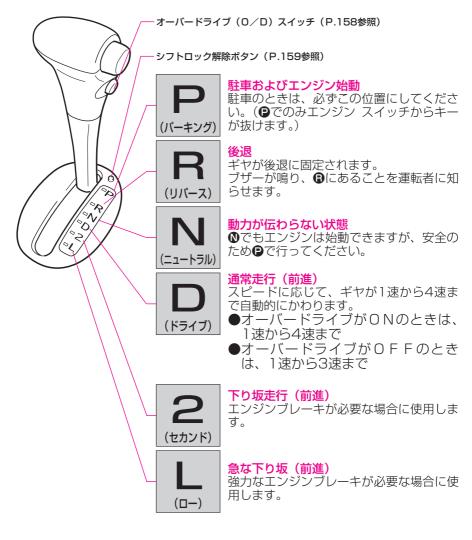
車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- ●車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあ り危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- ●走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力 装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に 重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道 を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

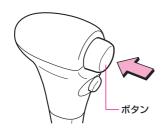
シフトレバーの使い方

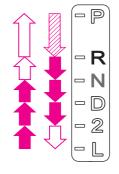
オートマチック車の使い方

● シフトレバーの働き



● シフトレバーの取り扱い





■シフトレバーの操作

回と●の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車が完全に止まっている状態で行ってください。

ボタンを押して

- ↑ の矢印は、ボタンを**押して**操作します。
- の矢印は、**ブレーキペダルを踏んだ まま**、ボタンを**押して**操作します。

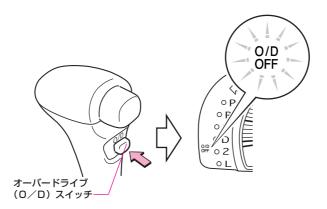
ボタンを押さずに

↓↑ の矢印は、ボタンを**押さずに**操作します。



♪ の操作はレバーボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反して ②、 ③ または ⑤ に入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■オーバードライブ(O/D)スイッチの操作



スイッチを押すごとにOFFとONに切り替わります。

- ●OFFのとき、オーバードライブOFF表示灯(P.176参照)が点灯します。
- ●エンジン始動時にはオーバードライブONの状態になっています。

知 知 識

オーバードライブ (O/D) について

オーバードライブOFF表示灯が消灯しているとき(オーバードライブON) 通常走行に適します。

シフトレバーが**●**で走行中、4速(オーバードライブ)ギヤにまで入り、燃費性能と静粛性 を高めます。

オーバードライブOFF表示灯が点灯しているとき(オーバードライブOFF) 4速(オーバードライブ)ギヤに入らなくなり、次のような効果があります。

- ●軽いエンジンブレーキが得られます。
- ●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

作動条件について

- ●エンジン スイッチが "ON"のとき使用できます。
- ●エンジン始動時には、オーバードライブONの状態になっています。



安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- ●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを♀からレバー操作できません。
- ■エンジン スイッチが "ACC" または "LOCK" のときは、ブレーキペダルを踏 んでも操作できません。
- ●シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがありま す。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。
- ●母以外ではエンジン スイッチからキーは抜けません。
 - ■エンジン スイッチからキーを抜くときは、Pにしてください。(P以外ではキーを ' ACC " ho "LOCK " にまわせません。)
- ●Bに入れると、ブザーが鳴ります。
 - ●ブザーが鳴り、**B**にあることを運転者に知らせます。
 - ●車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。(車外の人に対する警告音ではあ りません。)

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、

の

からレバー操作できないときに使用します。

- ●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを "AC C " にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを 操作してください。
- ●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただ ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● 各シフト位置での速度限界 □

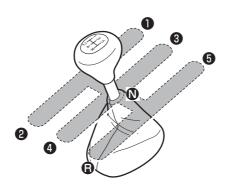
エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこ えないようにしてください。

単位:km/h [参考値]

	→ → · · · · ·	
エンジン型式	1NZ-FE	
シフト位置	FF	4WD
L	65	60
2	115	110
D (0/D 0FF)	180	170

マニュアル車の使い方

● シフトレバーの取り扱い



■シフトレバーをBに入れるときは

誤操作を防ぐため、 $oldsymbol{6}$ から $oldsymbol{6}$ へは直接入れることができません。いったん $oldsymbol{6}$ にしてから $oldsymbol{6}$ に入れます。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを平地や下り坂では**®**、上り坂では**®**に入れます。

また、寒冷時に駐車するときは、P.262の**「駐車するときは」**をあわせてお読みください。



車両が動いているときはシフトレバーを⊕に入れないでください。

- ●車両が動いているときはシフトレバーを**⑤**に入れないでください。車が完全に停止してから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。
- ●駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、車両が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

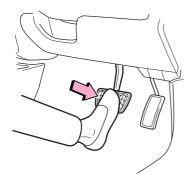
単位:km/h 「参考値]

	+17・以	11/11【多方區】
エンジン型式	1NZ-FE	
シフト位置	FF	4WD
1速	50	45
2速	90	80
3速	130	120
4速	170	160

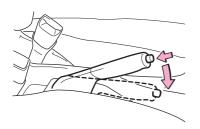
オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

●通常発進のしかた



ブレーキペダルを右足でしっかり踏ん だまま、シフトレバーを●に入れます。



2 パーキングブレーキを解除します。 P.168参照。



3

ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、
右足でアクセルペダルをゆっくり踏み
発進します。

● 上り坂の発進のしかた

- **7** パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーを**⑤**に入れます。
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏みます。
- **3** 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。

ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- ●発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- ●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーを●に入れたまま走行します。

●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

●急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

● 坂道で走行するときは

■上り坂

アクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを**②**にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが**回**のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて**②**または**●**にしてエンジンブレーキを併用します。

●オーバードライブをOFFにすることによっても軽いエンジンブレーキが 得られます。



小警告

走行中にはシフトレバーをのにしないでください。

- ●走行中にはシフトレバーを\(\mathbb{O}\)にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かない ため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●前進で走行中は、シフトレバーを⊕に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故 につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力 が加わり、故障するおそれがあります。
- ●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作 は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●坂道などでは、シフトレバーを**①**(または**②①**)に入れたまま惰性で後退したり、**②**に入 れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効き が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれが あり危険です。



シフトレバーを●にしたままで走行すると、トランスミッションの故障の 原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

● 停車のしかた ■

7 車を止めます。シフトレバーは**®**に入れたまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。

右足でブレーキペダルをしっかり踏み、しっかりパーキングブレーキをかけてください。

る場合は、シフトレバーを
②(または
③)に入れます。

● 駐車のしかた □

- 7 車を完全に止めます。
- 2 パーキングブレーキをかけます。 右足でブレーキペダルをしっかり踏んだまま、パーキングブレーキを しっかりかけます。
- **3** シフトレバーを**®に入れます**。 車が動き出さないためにも、必ず**®**にしてください。
- **4 エンジンを停止します。** 車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

↑ 警告 走行中は、シフトレバーを❷に入れないでください。

- ●走行中はシフトレバーを**②**に入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーが**②・③**以外に入っていると、車が 急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

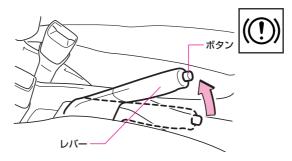
車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠 してください。

- ●エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーが**②**以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- ●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーを**●**に入れたままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキの使い方

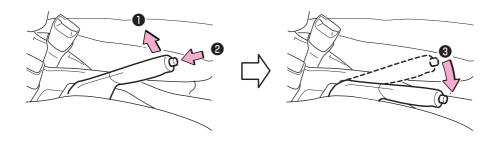
パーキングブレーキをかけるには



ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。

●ブレーキ警告灯が点灯します。

● パーキングブレーキを解除するには



- ●レバーを少し引き上げながら
- ②ボタンを押さえて、
- 3完全に下までもどします。
- ●ブレーキ警告灯が消灯します。

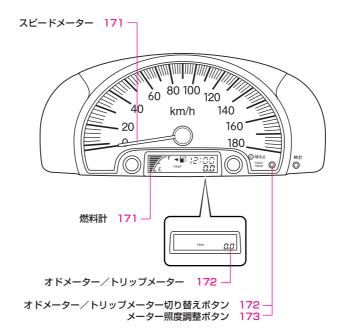


パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

MEMO

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター



● 燃料計 ■

エンジン スイッチが "ON"のとき、燃料残量を示します。

- ●燃料タンク容量は約50 L です。
- ●エンジン スイッチが " O N " のとき、燃料残量が約8 L 以下になると、 一番下の残量表示と燃料残量警告灯が点滅します。(P.187参照) 点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。



燃料計について

- ●給油量が少ないと、表示がかわるまでに時間がかかることがあります。
- ●エンジン スイッチが " O N " のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- ●燃料計にある **◆**印はフューエルリッド(燃料給油口)が助手席側車両後方にあることを示しています。
- ulletエンジン スイッチを " A C C " または " L O C K " にしても、約10分間は表示します。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

→ オドメーター/トリップメーター ■

エンジン スイッチが "ON"のとき、次の表示を示します。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

区間距離をkmの単位で示します。



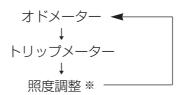
オドメーター/トリップメーターについて

エンジン スイッチを " A C C " または " L O C K " にしても、約10分間は表示します。

→ オドメーター/トリップメーター切り替え ボタン(トリップメーターリセットボタン)

■表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



※ランプ点灯時

■トリップメーターをO(ゼロ)にもどすときは

トリップメーターを表示させてから、切り替えボタンを表示がOになるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターはOになります。

● メーター照度調整ボタン

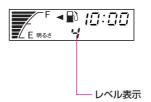
■メーター照度調整表示に切り替えるには

エンジン スイッチとライトスイッチが "ON"のとき、調整ボタンを押すと、トリップメーター表示のあとに照度調整表示に切り替わります。(前ページ参照)

■照度調整のしかた

メーター照度調整表示中、調整ボタンを約1秒以上押し続けると、メーター 照明の明るさをかえることができます。

- ●お好みの明るさになったら、ボタンから手を離します。
- ●6段階で明るさのレベルを調整できます。

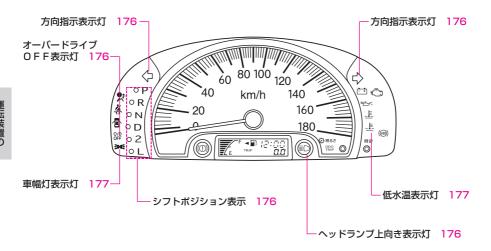


- 😭 知 識

照度調整表示について

- ●次のような場合は、自動的に照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。
 - ●照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上、ボタンを操作しなかったとき。
 - ライトスイッチをOFFにしたとき。
- ●エンジン スイッチを " A C C " または " L O C K " にしても、約10分間は調整できます。

表示灯



図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名
$\langle \neg \downarrow \rangle$	方向指示表示灯
≣D	ヘッドランプ上向き表示灯
O/D OFF	オーバードライブOFF表示灯
↓	低水温表示灯(青色)
3005	車幅灯表示灯



オートマチック車

選択されているシフト位置を表示します。



方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。 (P.192、200参照)



点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。



● ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。(P.191参照)



■ オーバードライブOFF表示灯

オートマチック車

オーバードライブスイッチをOFFにすると点灯します。(P.158参照)



● 低水温表示灯(青色) ■

エンジン スイッチが "ON"のとき、エンジン冷却水の水温が低いと点灯します。



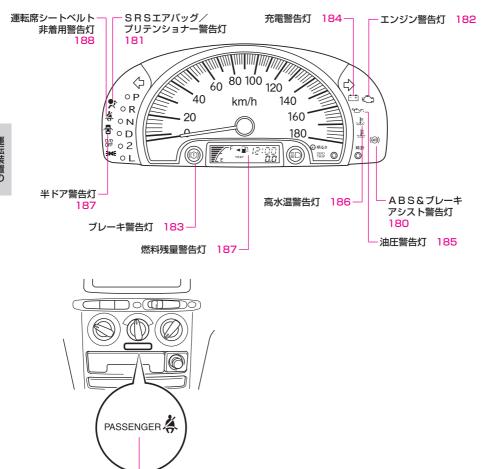
暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、 温度センサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検 を受けてください。



●車幅灯表示灯■

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。(P.190参照)

警告灯



図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

助手席シートベルト非着用警告灯 188

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
(ABS)	ABS& ブレーキアシスト警告灯 (ABS&ブレーキアシスト装着車)	₽	高水温警告灯(赤色)
**	SRSエアバッグ/プリ テンショナー警告灯		燃料残量警告灯
#	エンジン警告灯		半ドア警告灯
((!))	ブレーキ警告灯	Ž.	運転席シートベルト非着 用警告灯
-+	充電警告灯	PASSENGER 🧸	助手席シートベルト非着 用警告灯
97	油圧警告灯		

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますの で、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



ABS&ブレーキアシスト警告灯!

ABS&ブレーキアシスト装着車

ABS&ブレーキアシストシステム(P.244)に異常があると 点灯します。

- ●警告灯が点灯しているときは、ABS&ブレーキアシストは 作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されて います。
- ●警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため急ブ レーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤが ロックすることがあります。



ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのとき はただちに停車してください。

- ●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な 場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ABSに異常 が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるお それがあります。
- ●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、 トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - エンジンスイッチを"ON"にしても点灯しないとき。
 - ●エンジン スイッチが "ON"で点灯したまま消灯しないとき、または 走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただ し、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてくださ い。



❤️知識

警告灯について

エンジン スイッチを "ON"にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯・点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



SRSエアバッグ/ プリテンショナー警告灯

SRSエアバッグシステム (P.232)、またはプリテンショナー付シートベルトシステム (P.242) に異常があると、点灯・点滅します。



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- ●エンジン スイッチを "ON"にしても点灯しないとき、 または点灯・点滅したままのとき。
- ●走行中に点灯・点滅したとき。



警告灯について

エンジン スイッチを "ON"にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますの で、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



) エンジン警告灯 |

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、またはオートマ チックトランスミッション電子制御システムに異常があると点 灯します。



エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店 で点検を受けてください。



警告灯について

エンジン スイッチを "ON"にすると点灯し、エンジンをかけると消灯し ます。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、ト ヨタ販売店へ連絡してください。



● ブレーキ警告灯 □

エンジン スイッチが "ON"で次のときに点灯します。

- ●パーキングブレーキをかけたままのとき。
- ●ブレーキ液が不足しているとき。



警告灯が次のようになったときは、ただちに 安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡 ください。

- ●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。 この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ 事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダ ルを強く踏んでください。
- ●警告灯がABS&ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。 この場合、ABSに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際 に車両が不安定になるおそれがあります。



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジン スイッチが "ON"で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。

●パーキングブレーキが解除された状態で、エンジン スイッチを "ON" にしても点灯しないとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、ト ヨタ販売店へ連絡してください。



充電警告灯 □

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。



警告灯について

エンジン スイッチを " O N " にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、ト ヨタ販売店へ連絡してください。



油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に 異常があると点灯します。

この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の 点検はオイルレベルゲージにより行ってください。 (点検方法は、P.299をお読みください)



エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に 停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検し てください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷 するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないの に点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯 するときは、トヨタ販売店へで連絡ください。



警告灯について

エンジン スイッチを " O N " にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 高水温警告灯(赤色) □

エンジン回転中、エンジン冷却水の水温が異常に高くなったと き点滅します。



警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、「オーバーヒートしたときは」(P.338)にしたがって処置してください。



警告灯について

エンジン スイッチを "ON"にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



燃料残量警告灯

エンジン スイッチが " O N " のとき、残量が約8 L 以下になると点滅します。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。



半ドア警告灯■

いずれかのドア(バックドアを含む)が確実に閉まっていないときに点灯します。



警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉っていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 運転席シートベルト非着用警告灯 □

エンジン スイッチが " O N " のとき、運転席シートベルトを 着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用し てください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

●シートベルトを装着すると消音します。



● 助手席シートベルト非着用警告灯 ■

エンジン スイッチが "ON"で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、 断続音が約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、 約30秒後にブザーの音がかわります。)

●シートベルトを装着すると消音します。



警告灯について

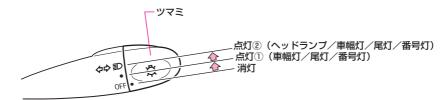
- ●センサーは、助手席シート座面(うしろ半分)に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- ●助手席シート座面上にクッション(座布団)などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

MEMO

スイッチの使い方

ライトスイッチ/方向指示レバーの使い方

●ランプの点灯・消灯



ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

●点灯させるとメーター内の車幅灯表示灯(P.177参照)が点灯します。



完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

作動条件について

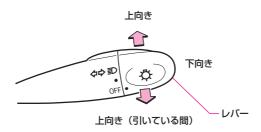
エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

便利機能について

ランプ消し忘れ警告ブザー

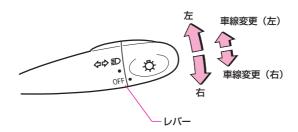
ツマミが点灯①・点灯②のままエンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが "ピー" と鳴ります。

●前方を遠くまで照らしたいときは



- ●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
- ●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
- ●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯(P.176参照)が点灯します。

方向指示灯の点灯・消灯



- ●レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。 レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
- ●車線変更のときには、レバーを軽く上、または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 知 識

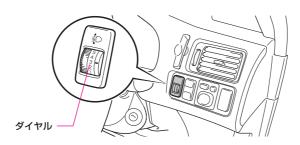
作動条件について

エンジン スイッチが "ON"のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプの光軸上下調整



ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸(光の照らす方向)を下向きに調整できます。

●通常はO(ゼロ)の位置(光軸が一番上向きの位置)で使用します。



光軸上下調整について

- ●荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもと違う(いつもより上向きになっている)ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルをO(ゼロ)の位置にもどしておいてください。
- ●乗員やラゲージルームの積載状況に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

乗員やラゲージルームの積載状況		ダイヤル位置			
		バン		ワゴン	
	2WD	4WD	2WD	4WD	
運転席のみ乗車時	0	0	0	0	
運転席と助手席に乗車時	0	0	1	1	
5名乗車時	_	_	2	2	
5名乗車時でかつラゲージルーム満載時	3	3	3	2	
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時 (リヤシート前倒し時)	5	4	5	4	

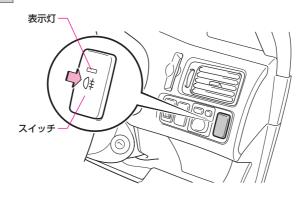
●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルをO(ゼロ)の位置(一番上向きの位置)に してから行ってください。

作動条件について

ヘッドランプ(ロービーム)が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプスイッチの使い方★

寒冷地仕様車



- ●スイッチを押すと表示灯が橙色に点灯し、もう一度押すと消灯します。
- ●点灯中は表示灯が点灯します。

知識

リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。

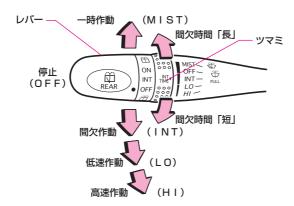
●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外 は使用しないでください。

作動条件について

- ●ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。
- ●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
- ●リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをOFFにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。
- ●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

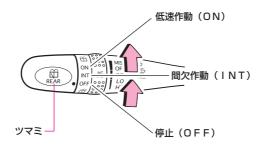
●フロントワイパーの動かし方



レバーを操作すると、上図のように作動します。

- ●間欠作動(INT)のときツマミをまわすと、間欠時間を約3~10秒の間で調整できます。
- ●一時作動(MIST)は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。

リヤワイパーの動かし方



ツマミをまわすと、上図のように作動します。



ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認して ください。

- ●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- ●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをOFF・エンジンスイッチを "ACC"または"LOCK"にし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。

知識 知識

作動条件について

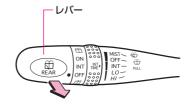
エンジン スイッチが "ON"のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

● ウォッシャー液の噴射のしかた

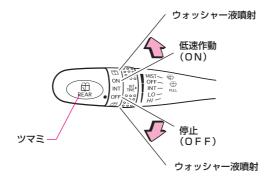
■フロント



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ



- ●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを ONから上の ① 側にまわします。
- ●ツマミをOFFから下の 前側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。



寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不 良を起こすおそれがあります。

- ●寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォ ッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- ●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いている ときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
- ●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障す るおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノ ズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

知 知 識

作動条件について

エンジン スイッチが "ON" のとき使用できます。

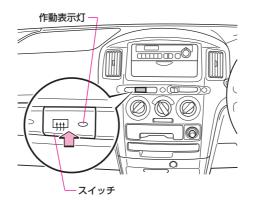
ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガ ラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.300をお読みください。

リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り) スイッチの使い方



スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。



連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



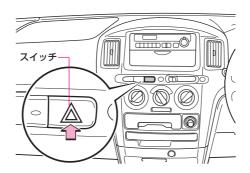
リヤウインドゥデフォッガーについて

リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

作動条件について

エンジン スイッチが "ON" のとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。



バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。



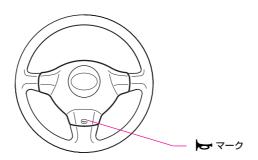
非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

ホーンの使い方



ハンドルの ▶マーク周辺部を押すとホーン(警音器)が鳴ります。



作動条件について

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

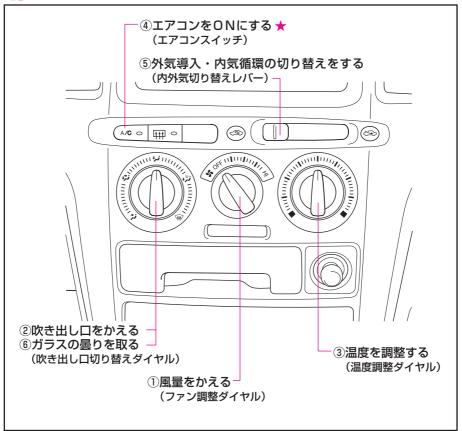
室内装備の取り扱い

エアコン・ヒーターの取り扱い	· 204
エアコン・ヒーターの使い方 204	
吹き出し口の調整 210	
ラジオの取り扱い	. 212
電源、音量・音質の調整 213	
ラジオの使い方 215	
アンテナ 217	
使用上の留意点 218	
	. 219
サンバイザー 219	
室内灯(フロント・リヤ) 219	
時計 220	
灰皿 221	
シガレットライター 221	
インパネテーブル 222	
センターボックス 222	
1D 1 Nポケット 223	
デッキサイドポケット 223	
フロアコンソール 224	
収納スペース 225	
アクセサリーソケット(AC100V) 227	
フロアマット 230	
7L/ (7) 230	

エアコン・ヒーターの取り扱い

エアコン・ヒーターの使い方

お好みの状態にするには



①風量をかえる



ダイヤルをOFFから右へまわす と空調の電源が入ります。 4段階で風量が調整できます。

風量を

- ●強くするときは右側
- ●弱くするときは左側 にダイヤルをまわします。 OFFにすると電源が切れファン

が止まり、空調は停止します。

②吹き出し口をかえる

使用目的に合った吹き出し口を 選択できます。

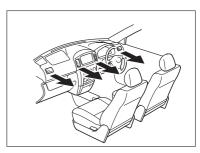


ダイヤルをまわして、吹き出し口の位置をかえることができます。

<吹き出し口選択の目安>

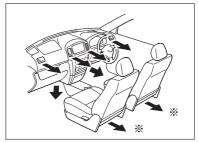
上半身に送風する ときは





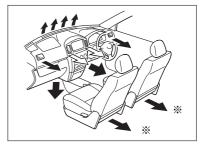
上半身と足元に 送風するときは





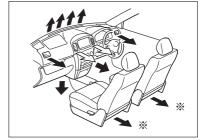
足元に送風する ときは





足元への送風と 窓ガラスの曇り を取るときは





- ※ 寒冷地仕様車のみ送風されます。
- ⇒ 最大冷房時のみ送風されます。

③温度を調整する

室内の温度調整ができます。



温度を

- ●上げるときは右側
- ●下げるときは左側にダイヤルをまわします。

④エアコンをONにする

冷房、除湿機能をONにすることができます。

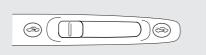


エアコン装着車

スイッチを押すごとに、エアコン (冷房、除湿機能)がONとOFF に切り替わります。

- ●作動中はスイッチの作動表示灯 が点灯します。
- ●外気温が0℃近くまで下がるとエアコンは0Nになりません。

⑤外気導入・内気循環の 切り替えをする



内外気切り替えレバーを

- ●左側にすると内気循環
- ●右側にすると外気導入 になります。

レバー位置	モード			
\$	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。			
	内気循環 外気をしゃ断している 状態です。トンネルや 渋滞など外気が汚れて れているときや早く冷 暖房したいとき、外気 温度が高いときの冷房 効果を早めたいときに お使いください。			

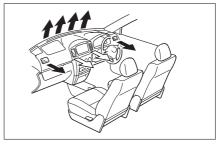
⑥ガラスの曇りを取る

吹き出し口を窓ガラスに固定します。



ガラスの曇りを取るときは、ダイヤルを ❤ にし、内外気切り替えレバーを ❤ (外気導入側) にします。

<吹き出し口>



⇒ 最大冷房時のみ送風されます。



湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを m の位置にしないでください。

外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知 識

内外気切り替えについて

- ●トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、 外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときは、内外気切り替えレバーを Φ (内気 循環側)にすると効果的です。
- ●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

より早くガラスの墨りを取るには

- **⑥ガラスの曇りを取る**の操作と併せて、次の操作を行います。
- ●エアコン装着車は、エアコンを作動させる。(エアコンスイッチを押す。)
- ●風量を増す。(ファン調整ダイヤルを操作する。)
- ●設定温度を上げる。(温度調整ダイヤルを操作する。)

内外気2層制御について

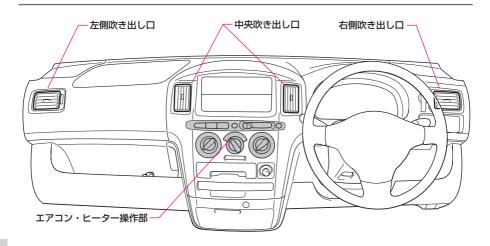
寒冷地仕様車

最大暖房および吹き出し口が がまたは がのとき、内外気切り替えレバーを ◆ (外気導入側)にすると、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環になり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。

エアコンの臭いについて

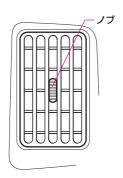
- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおす すめします。

吹き出し口の調整

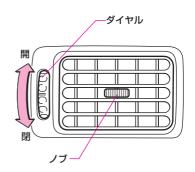


風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた■

中央吹き出し口



左右吹き出し口下図は右側



- ●吹き出し口のノブを動かすと、風向きの調整ができます。
- ●左右吹き出し口は、ダイヤルをまわして吹き出し口を開閉することができ ます。

知 知 識

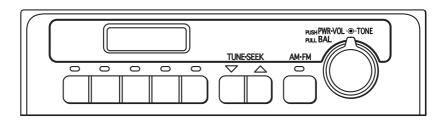
吹き出し口について

冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った 空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

MEMO

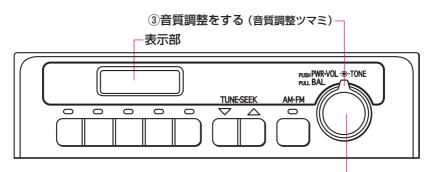
ラジオの取り扱い

メーカーオプションのDVDナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。



AM/FMラジオ★

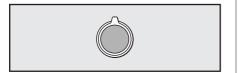
電源、音量・音質の調整



①電源を入れる・切る (パワースイッチ)-②音量調整をする (音量調整ツマミ)④左右の音量バランス調整をする (左右音量バランス調整ツマミ)

基本操作

①電源を入れる・切る



パワースイッチを押すごとに、電源が入と切に切り替わります。

②音量調整をする



音量調整ツマミを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。



作動条件について

エンジン スイッチが "ACC" または "ON" のとき使用できます。



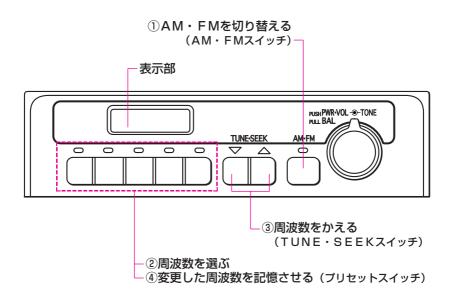
ツマミを右へまわすと高音が強調され、左へまわすと低音が強調されます。

④左右の音量バランス調整をする



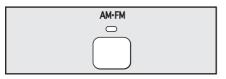
ツマミを引いたまま右へまわすと、右側音量が大きくなり、左へまわすと、 左側音量が大きくなります。

ラジオの使い方



基本操作

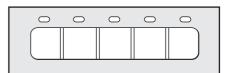
①AM・FMを 切り替える



スイッチを押すごとに、AM放送・FM放送に切り替わります。

●表示部にモードが表示されます。

②周波数を選ぶ

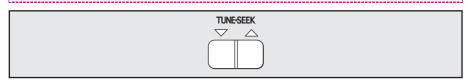


5つあるプリセットスイッチの1つ を押します。記憶されている放送 局が選択されます。

放送局の記憶のさせ方については、 P.216をお読みください。



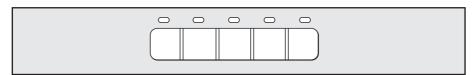
③周波数をかえる



周波数はTUNE・SEEKスイッチを押すと、切り替えることができます。

- ●高い方へ選択するときはスイッチの△側、低い方へ選択するときはスイッチの▽側を押します。
- ●スイッチを"ピッ"と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数が選択されます。
 - 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数に一番近い周波数 が自動で選択されます。
 - ●途中で止めるときは、もう一度スイッチを押します。
 - ●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

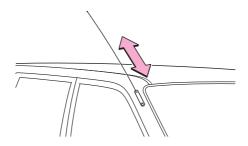
④変更した周波数を記憶させる



記憶させるプリセットスイッチの1つを "ピッ" と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。

- ●AM・FM各5局まで周波数を記憶させることができます。1つのスイッチにAM・FM各1局ずつ周波数を記憶させることができます。
- ●バッテリー交換やヒューズ交換などでラジオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

アンテナ



ラジオを使用するときは、いっぱいに引き出します。



アンテナの取り扱いにはご注意ください。

次のようなときには、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。

- ●自動洗車機にかけるとき。
- ●車庫の天井などにアンテナが当たるとき。
- ●カーカバーをかけるとき。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。

ラジオを聞いているときに車内、または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、ラジオのスピーカーからノイズ(雑音)が聞こえることがありますが、故障ではありません。



走行中のラジオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行って ください。

● ラジオについて

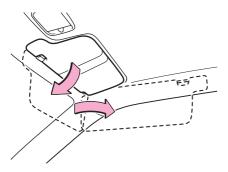
ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用しま す。

側面にまわして使用することもできます。

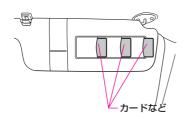


知 識

便利機能について

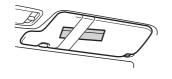
カードホルダー (運転席)

カードなどを収納することができます。サンバイザーの裏側にあります。

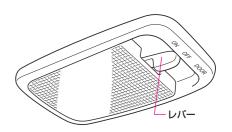


チケットホルダー(運転席)

チケットなどを収納することができま す。



室内灯 (フロント・リヤ)



- ●レバーがONのときは常に点灯 します。
- ●レバーがOFFのときは常に消 灯します。
- ●レバーがDOORのとき、いずれかのドアを開けると点灯し、 閉めると消灯します。

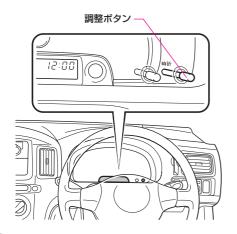
バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



作動条件について

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

信制



"時""分"を 調整するときは

- 7 調整ボタンを押し続けます。 約2秒間押し続けると"分" 調整モード("分"表示が点滅) になります。
- 2 "分" を調整します。 調整ボタンを押すごとに"分" が進み、押し続けると早送り されます。
- 3 調整ボタンから手を離し、約 5秒間待ちます。

"時"調整モード("時"表示 が点滅)に切り替わります。 4 "時"を調整します。

調整ボタンを押すごとに"時"が進み、押し続けると早送りされます。

5 調整ボタンから手を離し、約5秒間待ちます。時計が作動を開始します。

時報に 合わせるときは

時報と同時に調整ボタンを押すと、 時報に合わせることができます。

- ●0~29分は切り下げられます。
- ●30~59分は切り上げられます。
- (例) 1:00~1:29の場合は1:00に、1:30~1:59の場合は2:00になります。

知 識

作動条件について

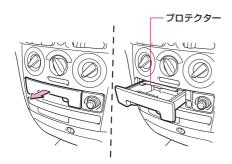
エンジン スイッチに関係なく時刻が表示されます。

●調整ボタンはエンジン スイッチが "ON"のとき使用できます。

時計の表示について

秒表示はありませんが**「時報に合わせるときは」**の操作後、O秒から作動を開始します。

灰川



使用するときは、手前に引いて開けます。

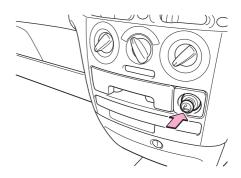
●取りはずすときは、プロテクター を下へ押したまま取りはずしま す。

♠ 警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

- ●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- ●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター



使用するときは、シガレットライターを押し込んで手を離します。 もとの位置にもどったら使用できます。



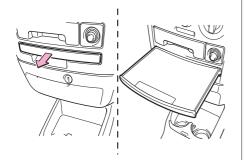
- ●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- ●シガレットライターの故障や周辺部の焼 損を防ぐため、次のことをお守りくださ い。
 - ●シガレットライターを押さえたままに しないでください。
 - ●他車のシガレットライターを差し込まないでください。
 - ●ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。



作動条件について

エンジン スイッチが "ACC" または 'ON" のとき使用できます。

インパネテーブル



使用するときは、手前に引き出します。

♠ 警告

走行中は絶対に使用しないでください。 シフトレバー操作のさまたげになった り、テーブル上のものが落下するなどし て、思わぬ事故につながるおそれがあり 危険です。

1 注意

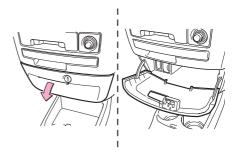
インパネテーブルの使用最大重量は 10kgです。それ以上重いものはのせないでください。テーブルが破損するおそれがあります。

知識

インパネテーブルについて

弁当の置き場所としてや、車内での伝票 書き、小型パソコンを使用するときなど に利用できます。

センターボックス



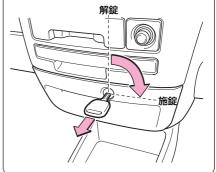
フタを手前に引いて開けます。

●使用しないときは、閉めておい てください。

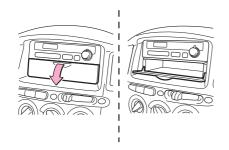
- 😭 知 識

施錠について

キーを差し込み、右にまわしたまま抜きます。



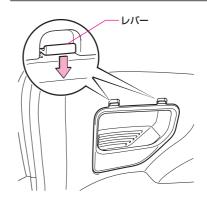
1DINポケット



ツマミを手前に引いて開けます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

デッキサイドポケット



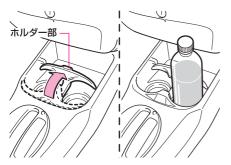
ラゲージルーム左側にあります。

- ●取りはずすときは、レバーを押 し込みながらはずします。
- ●取りつけるときは、そのままは め込みます。

- ●デッキサイドポケット裏側のスペース には、換気用の弁が取りつけられてい ます。次の理由から荷物などを収納し ないでください。
 - ●荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化 し、ドアの閉まりが悪くなるおそれ があります。
 - ●荷物で弁が押し開かれたままの状態 になり、車内に排気ガスや水が進入 するおそれがあります。
- ●デッキサイドポケットを取りはずして 使用したあとは、必ず取りつけておい てください。

フロアコンソール

カップホルダー ■



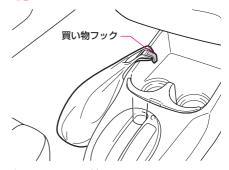
使用するときは、ホルダー部を前 方に開きます。

●使用しないときはホルダー部を 閉めて、小物入れとしても利用 できます。

企業告

- ●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- ●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときは収納しておいてください。

●買い物フック■



上図のように使用します。



とくに重たい物や、大きな物をフックに 吊り下げないでください。フックが折れ たり、走行中にはずれたりするおそれが あります。

最大荷重 ……… 約1kg

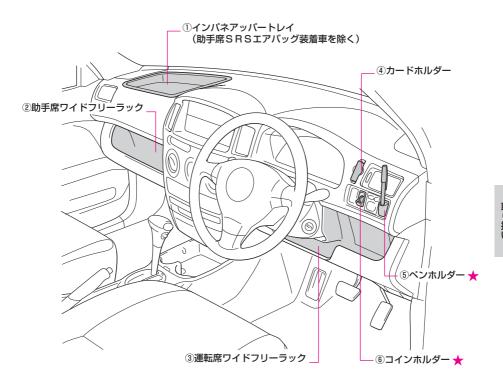
■ A4バインダー立て



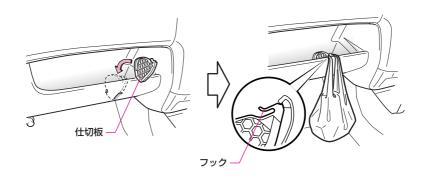
A4サイズのバインダーや書類など を収納できます。

収納スペース

①から⑥のスペースに、小物などを収納できます。



■助手席ワイドフリーラックについて



助手席ワイドフリーラックには、取りはずし可能なフック付き仕切板がついています。

上図のように使用してください。



カードホルダーにカードを入れたままにしないでください。

- ●カードホルダーにカードを入れたままにしておくと、カードが変型したり、盗難にあうおそれがありますので、カードを車内に放置しないでください。
- ●助手席ワイドフリーラックのフックには、とくに重たい物や、大きな物を吊り下げないでください。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

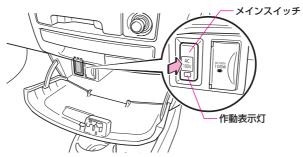
最大荷重 ……… 約1kg

アクセサリーソケット(AC100V) ★

センターボックスの中にあります。

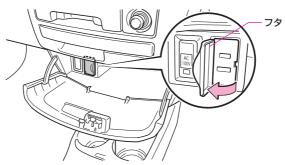
■ アクセサリーソケットの使い方

7 メインスイッチを押します。



- ●作動表示灯が点灯し、アクセサリーソケットが使用可能な状態になります。
- ●スイッチを押すごとに電源がONとOFFに切り替わります。
- ●アクセサリーソケットを使用しないときは、メインスイッチをOF Fにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

2 アクセサリーソケットのフタを開けます。

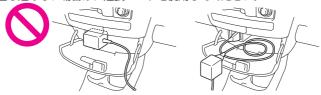


3 電気製品のプラグを差し込みます。



アクセサリーソケットを使用しないときはフタを閉めておいてください。

- ●アクセサリーソケットを使用しないときは、ソケットから電気製品のプラグをはずし、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
- ●エンジンを停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- ●使用する電気製品のプラグ形状よっては、充分にソケットに差し込めない場合があります。 無理に差し込むとセンターボックスを損傷したり、プラグが脱落するおそれがあります。 充分に差し込めない場合は、延長コードを使用してください。





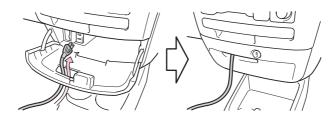
❤ 知識

作動条件について

エンジン スイッチが "ON"のとき使用できます。

アクセサリーソケットについて

- ●車内で電気製品を使用することができます。
- ●センターボックスの取っ手部からコードを出すことで、フタを閉めたまま使用することができます。



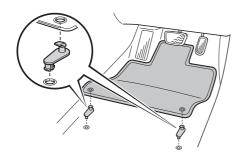
- 😭 知識 -

アクセサリーソケットについて

- ●AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品を使用してください。
 - ●規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。
- ●消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
 - ●起動時の消費電力が大きい機器(ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電気工具など)。
 - ●電源の周波数の切り替え(50/60Hz)のある機器(時計、オーディオなど)。
 - 精密なデータを計測する機器(医療機器、計測器など)。
 - その他(マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ランプなど)。
- ●使用する電気製品によってはラジオやテレビに雑音がはいることがあります。
- ●アクセサリーソケットの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧は測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

フロアマット

お車(年式)専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

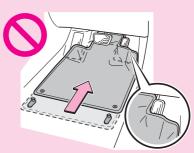


フロアマット付属の固定フック (クリップ)を使用して固定して ください。詳しい固定方法はフロ アマット付属の取扱書をお読みく ださい。



運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお 守りください。お守りいただかないと、フロアマットがず れて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり 車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれ があり危険です。

- ●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - 運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - ◆付属のフック(クリップ)を使って、常にしっかりと固定してください。
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- ●運転する前に、以下のことを確認してください。
 - フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
 - エンジン停止およびシフトレバーが●(オートマチック車)または®(マニュアル車)の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。



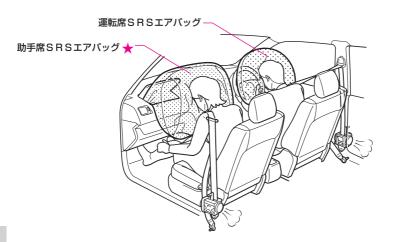
安全・快適装備の 解説と注意

SRSエアバッグ ·······	222
	232
SRSエアバッグとは? 232	
SRSエアバッグの作動のしくみ	233
SRSエアバッグが作動するとき	234
シートベルト関係	
- 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10	C-7C
シートベルトの働き 242	
EBD付ABS&ブレーキアシスト	244
ABS&ブレーキアシストとは?	244
ABS&ブレーキアシストが作動し	ているとき 245
EBDの働き 246	CV:022 2:10
EBDの働き 246 Vフレックスフルタイム4WD …	
Vフレックスフルタイム4WD …	248
Vフレックスフルタイム4WD … Vフレックスフルタイム4WDとは	248 ? 248
Vフレックスフルタイム4WD … Vフレックスフルタイム4WDとは Super ECT	248
Vフレックスフルタイム4WD … Vフレックスフルタイム4WDとは Super ECT Super ECTとは? 250	················ 248 ? 248 ··········· 250
Vフレックスフルタイム4WD … Vフレックスフルタイム4WDとは Super ECT	················ 248 ? 248 ··········· 250
Vフレックスフルタイム4WD … Vフレックスフルタイム4WDとは Super ECT Super ECTとは? 250	················· 248 ? 248 ············· 250

SRS *エアバッグ

SRSエアバッグとは?

※Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。 運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグは、運転者、または助手 席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふ くらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに 作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。



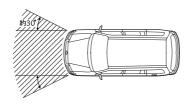
SRSエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、SRSエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。

また、正しく取り扱えば効果のあるSRSエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険をあたえるおそれがあります。

SRSエアバッグの作動のしくみ

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い 衝撃を受けたときに作動します。

衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、SRS エアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。

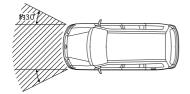


車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、SRSエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

●作動する場合



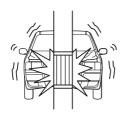
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

●作動しにくい場合

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

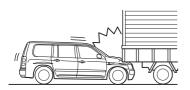


●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。

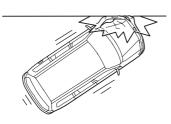


●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。



●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突 した場合。

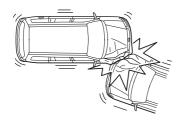


●斜め前方から衝撃を受けた場合。

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。



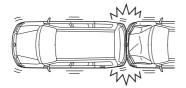
●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。



●衝突の方向(角度)や片側衝突(オフセット衝突)などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。



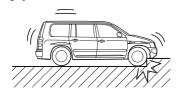
●側面や後方から衝撃を受けた場合。



●車両が横転・転覆した場合。

●車両下部に衝突を受けた場合

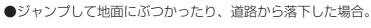
次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。

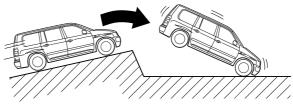


●縁石などにぶつかった場合。



●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。





▲ 警告

SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.138をお読みください。
- ●シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

<運転者のかたは>

運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員のかたは(助手席SRSエアバッグ装着車)>

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.128をお読みください。



- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。
- ●助手席SRSエアバッグ装着車では、お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な 傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ●お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
 - ●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシート に装着してご使用ください。

⚠ 警告

SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下 の項目を必ずお守りください。

- ●助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。(P.45参照)
- ◆やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後 調整位置を一番うしろにして取りつけてください。





● お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。





- ●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSR Sエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶ か、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずト ヨタ販売店にご相談ください。
 - SRSエアバッグおよびインストルメントパネル の取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしな いでください。
 - サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、 SRSエアバッグの誤作動につながります。
 - ●車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。



SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下 の項目を必ずお守りください。

- ●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害にお よぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - S R S エアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。



●助手席SRSエアバッグ装着車では、インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、 傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。



- ●無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。 構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険で す。

SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- ●SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。

この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。



また、SRSエアバッグ作動時の残留物(カスなど)が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

- ●助手席SRSエアバッグ装着車では、衝突したときなどに、助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。
- ●一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でSRSエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではSRSエアバッグは作動しません。
- ●車やSRSエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- ●SRSエアバッグが収納されているパッド部に 傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そ のまま使用せずトヨタ販売店で交換してくださ い。衝突したときなどにSRSエアバッグが正 常に作動せず、けがをするおそれがあります。



●エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止します。

燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度 "LOCK"にもどします。

MEMO

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー&フォースリミッター付シートベルト★

フロントシートベルト

- ●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- ●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構



【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構



【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

● ELR機構付シートベルト

3点式シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。



プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず 次のことをお守りください。

- ●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お 守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトを正しく着用する。(P.138参照)
 - シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。(P.128参照)
- ●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでくださ い。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行っ てください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなっ たり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり ます。
- ●プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ/プリテンショナー警告 灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ 販売店で交換してください。



車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、 必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発 生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- ●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談くだ さい。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあり ます。



プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次 のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

- ●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。
- なお、次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。
- ●側面や後方から衝撃を受けたとき。
- ●車両が横転、転覆したとき。

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃 を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

EBD*¹付ABS *2&ブレーキアシスト★

ABS&ブレーキアシストとは?

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力分配制御」の意味。 ※2 Antilock Brake System(アンチロック・ブレーキ・システム)の略。

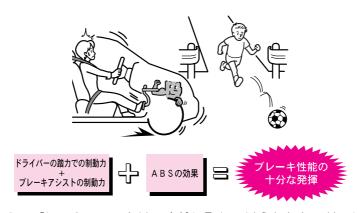
ABSは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック(回転が止まること)を防ぐことによりスリップを抑制します。

左右輪で路面状態が違う場合 乾いた路面 ぬれた路面 ABSあり ABSなし

左右の車輪ですべりやすさが違う路面での偏向やスピンを抑え、安定して止まることができます。 ブレーキアシストは、

- ●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
- ●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき

などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力の確保に貢献する装置です。しかし、ABSやブレーキアシストが作動した状態でもその効果には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。



また、ABS&ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.69の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ABS&ブレーキアシストが作動しているとき

●運転について

●急ブレーキ時は、ABS&ブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダールをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。



●急ブレーキ時にポンピングブレーキ **をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。







踏み続ける。



ゆるめたり、ポンピングはしない。

● 作動について □

思いきり踏む。

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ●ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
- ●ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、 ABSが作動することがあります。

EBDの働き

ABSの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性の確保に貢献します。

EBD付ABS&ブレーキアシストを 過信しないでください。

●EBD付ABS&ブレーキアシストを過信しないでください。

EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。EBD付ABS&ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- EBD付ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象 **が起こった場合は、効果を発揮できません。
 - ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう 現象。
- ●EBD付ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合などは、EBD付ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。
- ●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。 車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

知知識一

作動条件について

- ●EBD付ABS&ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるように なります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
- ●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとす べりやすいため、EBD付ABSが作動しやすくなります。

作動音について

- ●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や"カチッ"とい う音が聞こえることがあります。これは、EBD付ABSの作動をチェックしているとき の音で異常ではありません。
- ●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキア シストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。

Vフレックスフルタイム4WD

Vフレックスフルタイム4WDとは?

※ 4 Wheel Driveの略で「4輪駆動」の意味。

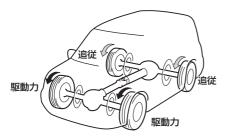
4WD車

通常はほぼFF走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生するとビスカスカップリングの作用により、自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。

Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪にあたえ、安定した操縦性・安定性に寄与する装置です。

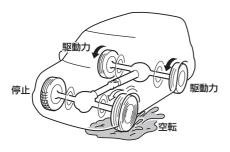
Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.64の「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

● 通常時(FF走行)



通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD(FF)に近い状態で走行します。

● コーナリング時や雪道(4WD走行)



コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、ビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。

通常走行にもどると、2WDになり ます。

タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.69の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

小警告

宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- ●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでくだ さい。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきな どの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれ があり危険です。
- ●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッド パターン(溝模様)のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて 装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差 が発生し、駆動系部品(ディファレンシャルギヤ)に無理な力がかかり、オイルの温度が 上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるお それがあり危険です。
- ●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧 の点検は必ず実施してください。
 - ●4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ●空気圧が指定値からはずれているとき
- ●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行って ください。(P.275参照)
- ●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでくださ い。(P.314参照)

Super ECT

Super ECTとは?

オートマチック車

フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃 費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッション です。

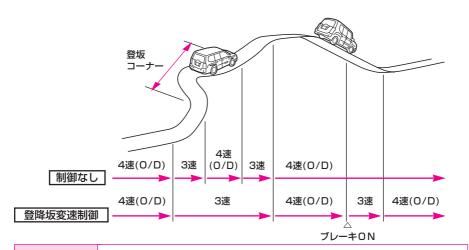
● フレックスロックアップシステムの働き ■

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。 フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフト レバーが**①**にあれば自動的に作動します。

● 登降坂変速制御システムの働き ■

アップダウンのあるワインディング路などをO/Dで走行しているときに、 登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によ るスムーズな走行を実現します。

また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場 合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンし、エンジンブレーキが かかります。





走行中、エンジン警告灯(P.182)が点灯したときは、オートマチックト ランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販 売店で点検を受けてください。

クラッチスタートシステム

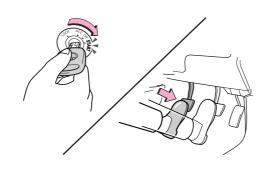
クラッチスタートシステムとは?

マニュアル車

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、キーを"START"位置にまわしてもスターターモーターがまわらず、エンジンをかからなくした装置です。

ギヤがはいっている場合に、クラッチを踏まずにスターターをまわしたときに車が動き出すのを防止するシステムです。

- ●エンジンを始動するときは、正しい運転姿勢をとり、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでから始動してください。正しい運転姿勢についてはP.128をお読みください。
- ●クラッチスタートシステム装着車では、エンストにより車が止まった場合、スターターによる車の移動はできませんので緊急時などはP.327の「動けなくなったときは」にしたがって行動してください。



車との上手な付き合い方

雨の日の運転について254
雨の日の運転 254
寒冷時の取り扱い255
冬の前の準備・点検 255
運転する前に 257
走行するときは 259
駐車するときは 262
経済的な運転264
環境にやさしく経済的な運転をするために 264
環境保護のために266
使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする 266

雨の日の運転について

雨の日の運転

■ すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなる ので、慎重に走行してください。

- ●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- ●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくな るおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
 - ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってし まう現象。

すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

- ●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制 御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、 車が構すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認して ください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片 方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

耐水した道路は走行しないでください。■

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷をあたえるおそれがあるの で走行しないでください。

⚠ 警告

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、 水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれ があります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは 必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合。

- ●エンジン・トランスミッション・トランスファー(4WD車)、ディファ レンシャルなどのオイル量および質の変化。(白濁している場合、水が 混入していますので、オイルの交換が必要です。)
- ●プロペラシャフト(4WD車) · 各ベアリング · 各ジョイント部などの 潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

■ エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(P.313の「**推奨する エンジンオイル**」参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示 してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

→ 冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12℃
寒冷地	50%	-35℃



アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

● バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や 充電をしてください。

● 冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- ●タイヤを取り替えるときは、必ずP.69の「**タイヤについての注意」**をお 読みください。
- ●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- ●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

● 寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなる ことがあります。その場合には速度を落としてください。
- ●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

● 屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。 走行する前に取り除いてください。

● ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。



フロントウィンドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウィンドウガラスの内側(車内側)が割れるおそれがあります。

□ 足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

→ 外気取り入れ口に積もった雪は |

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、 エアコンのファンを作動させてください。

雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったり するおそれがあります。

● ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。

スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは



お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす



ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面は慎重に走行してください ■

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。

橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。



シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の 急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● フェンダー裏側についた氷は ■

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

●ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを 踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

●すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.69の「タイヤについての注意」をお読みください。

⚠ 警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- ●指定サイズのタイヤを使用してください。
- ●指定空気圧に調整してください。
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

● タイヤチェーン ■

- ●タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
- ●タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。
- ●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- ●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキング ブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

- 7 エンジンを停止します。
 - マニュアル車は、エンジンを停止し、シフトレバーを**G**に入れます。 オートマチック車は**G**にし、エンジンを停止します。
- 2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板 (または停止表示灯)を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。(P.318の「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」参照)

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

- ●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
- 6 フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。 P.329の「タイヤ交換のしかた」参照。

小警告

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

- ●タイヤチェーン装着時は約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響をあたえるため、必ず慎重に走行してください。
- ●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪 がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故 につながるおそれがあります。

また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイール キャップに傷をつけないよう注意してください。

- ●フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくてとがあります。
- ●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに 傷がつくことがあります。
- ●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまた げとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

■ エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをオートマチック車は**②**、マニュアル車は**③**に入れ、輪止めをします。



■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをオートマチック車は♥、マニュアル車は下り坂では♥、上り坂では♥に入れます。

- ●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。



パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● ボンネット側を風下に向ける ■

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

● ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。

5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。

▶ CO2 約420g削減(10回/月)

不要な荷物はおろして走行。

10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。

▶ CO2 約130g削減 (650km/月)

空ぶかしは禁物。

空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。

▶ CO2 約1150g削減(300回/月)

エアコンは少し控えめに。

エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。

▶ CO2 約1340g削減(3時間/月)

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。

適正値で50km走ると50kPa {0.5kg/cm} 減のときに比べて、ガソリン約 150ccの節約。

▶ CO2 約1250g削減 (650km/月)

発進・加速はスムーズに。

急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。

▶ C O2 約360g削減(各20回/月)

経済速度でロスなし走行。

一般道路で40~50km/h、高速道路では80km/hがベスト。

100km/hを80km/hにして、燃費が約10~30%向上。

●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速

加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。 シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速

早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。

ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも

アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。

思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しま しょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、 低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

- ●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
 - バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
- ●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
 - 購入した販売店に処分を依頼してください。
- ●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、 水に浮き、環境を悪くします。
 - 購入した販売店に処分を依頼してください。
- ●不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。 川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨ 夕販売店にご相談ください。
- ●エアコン冷媒用フロンガス(特定フロンガス C F C 1 2)は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
 - トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス(HFC134a)に全車切り替えを完了しています(93年完了)。
 - それでも、代替フロンガス(HFC134a)は地球を温暖化する働きがあります。
 - エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検 を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充填をしてください。

MEMO

MEMO

付き合い方車との上手な

メンテナンス

車の手入れ 270
日頃の手入れ 270
外装の手入れ 271
内装の手入れ 273
エアコンの手入れ 274
タイヤローテーション 275
ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換 276
ヒューズの点検・交換 278
外装の電球(バルブ)交換 284
日常点検294
日常点検について 294
エンジンルームの点検 295
車のまわりの点検 302
運転席に座っての点検 305
走行しての点検 307
メンテナンスデータ 308
メンテナンスデータ 308

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

● 洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

→ 月に1度はワックスがけを行ってください ■

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品 (ホイールなど) の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- ●塗装の劣化や車体・部品(ホイールなど)の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したあと
 - ●凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ■コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
 - ●ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ほこり、泥などで激しくよごれたとき
 - ●塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- ●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

●洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

- ●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
- ●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- ●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
- ●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

- ●ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ●ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

●高圧洗車機を使うときは■

- ●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
- ●駆動系部品(ディファレンシャルギヤなど)のベアリングやオイルシール 部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内 部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

● アルミホイールの手入れ

- ●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでく ださい
- ●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
- ●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

□ ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき(およそ体温以下を目安としてください。)に行います。



↑ 警告

エンジンルーム内に水をかけないでください。

- ●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気 部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。 ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着 につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- ●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。 ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効 いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷め てからにしてください。やけどをするおそれがあります。



洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

- ●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- ●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつき
- ●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブ ラシなどでですったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
- ●目地のある素地部*に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着す ると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
- ※ 塗装されていないバンパー・ドアハンドル・ドアミラーなどの樹脂部分

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

⚠ 警告

車内に水をかけないでください。

- ●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。ラジオやフロアカーペット下に ある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそ れがあり危険です。
- ●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- ●内装(特にインストルメントパネル)の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

クリーナーに含まれる成分に注意してください。

- ●内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- ●芳香剤(液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど)を、内装品(エアコンやオーディオなど)に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- ●リヤウインドゥの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- ●リヤウインドゥの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気を つけてください。
- ●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- ●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。 インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれが あります。

エアコンの手入れ

● エアコンガス(冷媒)の点検 ■

冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。

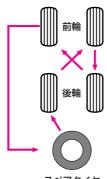
夏になる前に点検・補充をしてください。

●エアコンガスの点検・補充は、トヨタ販売店で受けてください。

タイヤローテーション

タイヤの磨耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

- ●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。
- ●タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。 指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気 圧」の表(P.303参照)、またはメンテナンスデータ(P.314参照)で ご確認ください。



スペアタイヤ



タイヤローテーションをしたあとは、指定空気圧に調整してください。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。

とくに100kg以上積荷または4名乗車以上時のバンは、前後のタイヤで指定空気圧が異なるため、タイヤローテーションを行ったあとに必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

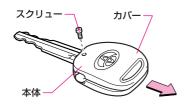
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。



日常点検として必ずタイヤを点検してください。

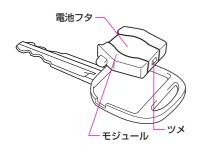
- ●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。(P.69「タイヤについての注意」 参照)
- ●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店に ご相談ください。(P.81**「その他の注意」**参照)

ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換★



7 カバーをはずします。

市販の精密ドライバーで、スクリュー(1本)をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。



2 モジュールを本体から取り出します。



3 電池フタをはずします。

2カ所のツメをはずして、電池フタを 取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の 側を上にして挿入します。 5 電池フタをはめます。

モジュールのOリングがあるのを確認してから、電池フタをもとどおりにしっかりと取りつけます。

6 モジュールおよびカバーを取りつけます。

モジュールを本体の中にもどし、カバーを取りつけて、スクリュー(1本)でもとどおりにしっかりと締めつけます。

7 作動確認をします。

リモコンスイッチを押したとき、本体のLEDが点灯することを確認します。



取りはずした電池や部品を(とくにお子さまが)飲みこまないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- ●電池交換時にはスクリュー・ロリングなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- ●電池フタを曲げたりしないように注意してください。
- ●電池以外の部分にふれたり、動かしたりしないでください。
- ●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- ●電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- ●ロリングは傷つけたり、ねじって取りつけたりしないように注意してください。



電池について

使用電池……リチウム電池CR1220

電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れや ランプ自体の球切れが考えられます。

次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

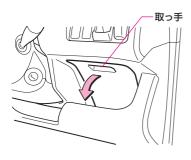
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

● ヒューズの点検・交換のしかた □

Tンジン スイッチを "LOCK"にします。

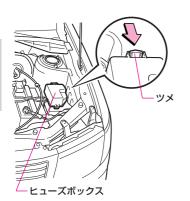
2 ヒューズボックスのカバーを開けます。

●ヒューズラベルがカバーに表示してあります。



■運転席側ヒューズボックス

取っ手を引いて、カバーを開けます。



■エンジンルーム内ヒューズボックス

カバー横のツメを押しながらカバーを持ち 上げ、カバーをはずします。 3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

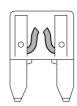
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

4 ヒューズを交換します。

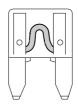
ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

- ●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
- ●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ●取り替えても再びヒューズが切れるとき。
 - 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

切れた状態



切れていない状態

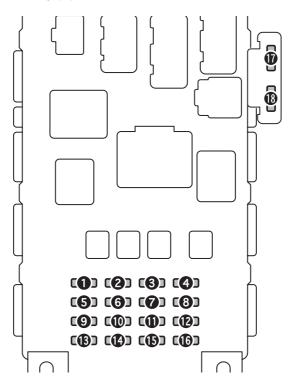




規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、 火災につながるおそれがあり危険です。

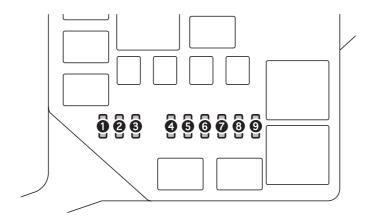
● ヒューズの受け持つ装置

■運転席側ヒューズボックス



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
0	GAUGE	10A	メーター
8	DEF	20A	リヤウインドゥデフォッガー
8	D/L	25 A	ドアロック
4	TAIL	7.5 A	尾灯
6	_	_	_
6	WIPER	20A	ワイパー&ウォッシャー
•	ECU-B	7.5 A	ABS
8	_	_	_
9	ACC	15A	電動ミラー、オーディオ
•	ECU-IG	7.5 A	ABS、メーター
0	_	_	_
ø	HAZ	10A	非常点滅灯
₿	A. C	7.5 A	エアコン
•	_	_	_
®	INV	15A	アクセサリーソケット
®	STOP	10A	制動灯
v	I/UP	7.5A	エンジンコンピューター
13	_	_	_

■エンジンルーム内ヒューズボックス

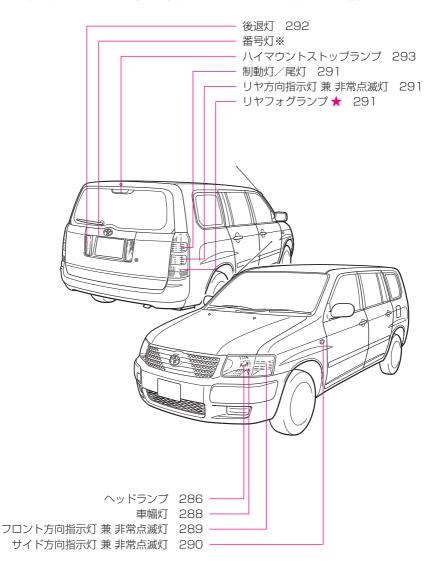


	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
0	BA(未使用)	_	_
8	H-LP RH	10A	ヘッドランプ(右側)
8	H-LP LH	10A	ヘッドランプ(左側)
4	_	_	_
6	ST	30 A	スターター
6	AM2	15A	ABS
7	HORN	15A	ホーン
8	EFI	15A	エンジンコンピューター
9	DOME	15A	室內灯

外装の電球(バルブ)交換

この車の外装には、下図で示した電球(バルブ)があります。

- ●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。
- ●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。





電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。



電球は十分注意して取り扱ってください。

- ●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
- ●必ず同じワット数の電球を使用してください。(P.309参照)
- ●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水 入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- ●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。



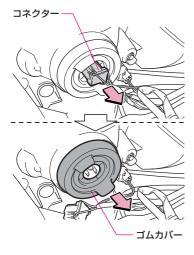
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

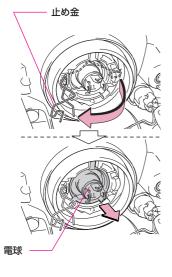
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ



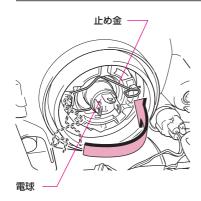
■取りはずしかた

7 ボンネットを開け、コネクターとゴム カバーを取りはずします。



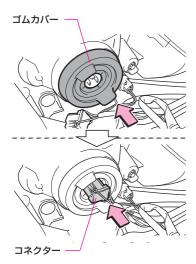
2 止め金をはずし、電球を取りはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。



■取りつけかた

7 電球を取りつけ、止め金をかけます。



2 ゴムカバーをはめ込みます。

- ●ゴムカバー外周をしっかりとはめ込 みます。
- ●ゴムカバー内周(電球周り)を全周 にわたり電球の金具部分が確認でき るまで押し込みます。
- 3 コネクターを差し込みます。

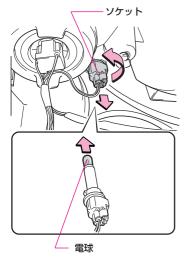


ゴムカバーが確実にはめ込まれていることを確認してください。ゴムカバーがしっかりはめ込まれていないとヘッドランプへの水入りの原因となります。

※ 図は運転席側で説明しています。



車幅灯



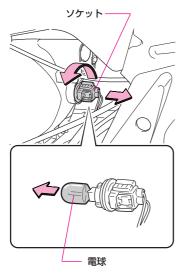
■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向 にまわして引き抜き、ソケットから電球を 取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけま す。

● フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 ■



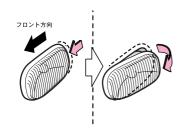
■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

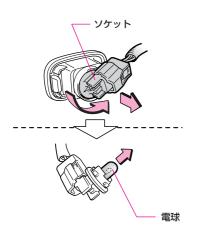
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯



■取りはずしかた

フランプ本体を取りはずします。 ランプ本体を車両前方にスライドさせたまま、ランプ後部を手前に引いて取りはずします。



2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。

■取りつけかた

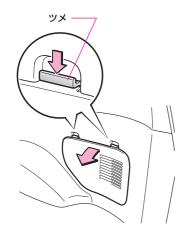
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。



本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。 落ちないように注意して作業してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

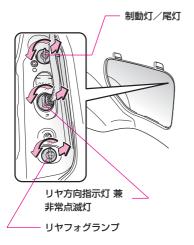
リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯/尾灯、リヤフォグランプ★



■取りはずしかた

7
 バックドアを開け、フタを取りはずします。

ツメを押しながらフタをとりはずしま す。



2 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして電球 を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

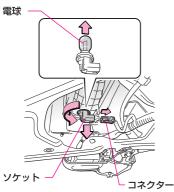
- ※ 図は運転席側で説明しています。
- ★印はグレード等により装着の有無が異なります。

後退灯



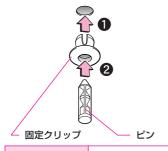
■取りはずしかた

- 7 バックドアを開け、カバーと内張りをはずします。
 - ●カバー裏に固定具(5個)があります。
 - ●ピンを押し込んで、固定クリップ (カバー1個、内張り9個)をはずし ます。



2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。

先にコネクターをはずします。



■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

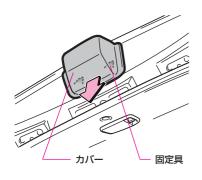
固定クリップを取りつけるには、固定クリップを差し込み、ピンをはめ込みます。



固定クリップのピンを必要以上に強く押し込まないでください。ピンが固定クリップからはずれ、抜けなくなるおそれがあります。

※ 図は助手席側で説明しています。

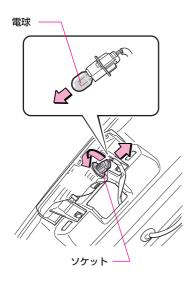
ハイマウントストップランプ



■取りはずしかた

7 バックドアを開け、カバーをはずします。

カバー裏に固定具(2個)があります。



2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

日常点検

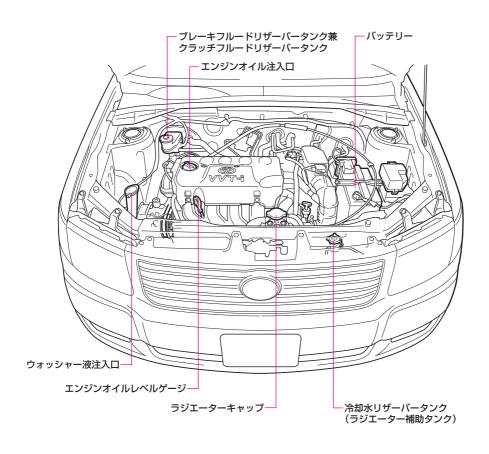
日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、 長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

- ●基準値については、P.308の「メンテナンスデータ」をお読みください。
- ●点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお 読みください。

エンジンルームの点検



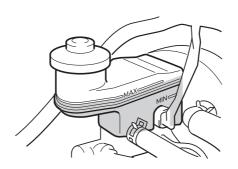


点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。



● ブレーキの液量 ■

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのMAXとMINの間にあるかを 点検します。





ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ 事故につながるおそれがあり危険です。



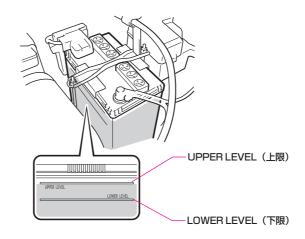
❤️知識:

ブレーキフルードリザーバータンクについて

マニュアル車では、ブレーキフルードリザーバータンクがクラッチフルードリザーバータン クと共用になっています。

●バッテリーの液量■

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL(上限)と LOWER LEVEL(下限)の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

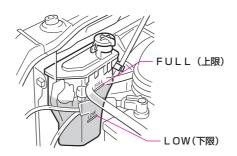




バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

●冷却水の量■

冷却水の量がリザーブタンク(補助タンク)のFULLとLOWの間にあるかを点検します。



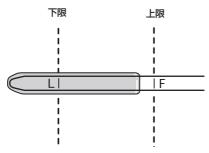


冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。

- ●冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。
- ●エンジン回転中、またはエンジン停止直後には、ラジエーター・リザーブタンク(補助タンク)に直接手などで触れないでください。高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- ●冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損の おそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時 に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント (不凍液)を適切な濃度でご使用ください。

● エンジンオイルの量 ■

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。



エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- ●エンジンを止めてください。
 - ●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や 衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- ●エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、 やけどをするおそれがあり危険です。



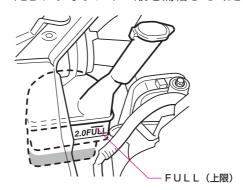
エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- ●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷をあたえるため、定期的に点検・交換をしてください。
 - ●エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- ●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- ●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

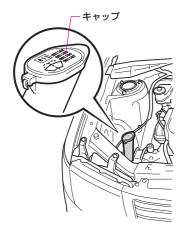
ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャータンク側面から、液面を確認します。

●液面が見えなくなったら、ウォッシャー液を補給してください。



■ウォッシャー液を補給するには



7 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注 入口のキャップを確実に閉めてくださ い。

●FULLの位置をこえないように、 補給してください。



エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。



ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のし みになるおそれがあります。



リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

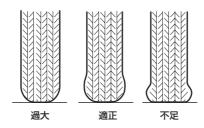
リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.69の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤの空気圧

タイヤが冷えている(走行前)状態でタイヤの接地部のたわみ状態(つぶれ 具合)を見て、空気圧が適正であるかを点検します。



- ●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- ●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。



指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 *によりタイヤがバースト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

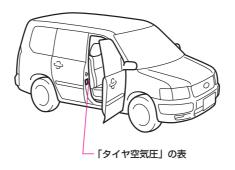
※ 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。



指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または メンテナンスデータ(P.314)でご確認ください。

- ■スペアタイヤも点検してください。
- ●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になりま
- ●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。



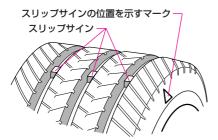
● タイヤのき裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、 紅・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを 装着しないでください。

- ●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じ ることがあります。
 - また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横す べりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - 走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイ ヤに交換してください。
- ●異常があるタイヤを装着していると、車の性能(燃費・車両の方向安定性・制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、 部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗





〈例:スリップサインが出ていない状態〉*

〈例:スリップサインが出ている状態〉*

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン(摩耗限度表示)が現われて いないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検し ます。

※ 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。



摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン(摩耗限度表示)が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。
※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイ

** 小いたようた連路を同途とたけすると、ライヤと路面の间に水が入り込み、ライヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

● 灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。



ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が 曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラ スが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の 水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けて ください。

運転席に座っての点検

● パーキングブレーキの引きしろ ■

パーキングブレーキが止まるまでゆっくりと引き、"カチカチ"音が基準値の範囲で止まるかを点検します。

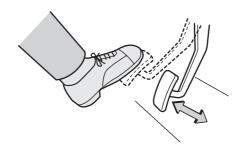


●エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。 また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点 検します。

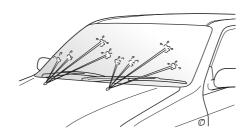
● ブレーキペダルの踏みしろ ■

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。



● ウインドゥウォッシャーの噴射状態 |

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。



● ワイパーの払拭状態

ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、 「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。



● 灯火装置・方向指示器の作用 □

各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが 不足していないかを点検します。

走行しての点検

●ブレーキの効き具合■

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検 します。



走行中、継続的にブレーキ付近から警告音("キーキー"音)が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

●前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

■点検基準値

	項 目	メンテナンスデータ
	遊び [mm] (負圧なしの状態)	1~6
ブレーキ ペダル	踏み込んだときの 床板とのすき間 [mm] 〔踏力500N{50kg f } (エンジン0Nの状態)	
	遊び [mm]	5~15
クラッチ ペダル	クラッチが切れたときの 床板とのすき間 [mm]	
パーキングブレーキ	引きしろ [ノッチ] 〔操作力200N {20kg f	}) 6~9
Vリブド ベルト	オルタネー ターベルト たわみ量 [m (押力100N {10	
	P/S ベルト	7/6/1)

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

■バルブのワット数

項	目	メンテナンスデータ
電球	W(ワット)数	ヘッドランプ (ロービーム) 60W

■ウォッシャータンク容量

項	目	メンテナンスデータ
ウォッシャー タンク	容量[L] (参考値)	2.0

■燃料の量と種類

	項目	容量 (参考値)	指定銘柄
燃料	タンク容量[L]	50	無鉛 レギュラーガソリン

■冷却水、油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項	目	容量 [L] (参考値)	銘 柄
\\ \ \ +1	M/T	4.4	トヨタ純正 スーパーロングライフ クーラント
冷却水	A/T	4.3	●凍結保証温度 濃度30% -12℃ 濃度50% -35℃
オートマチック トランスアクスル フルード	FF車	6.8	トヨタ純正 オートフルードタイプ
ブルート (含むディファレン シャル)	4WD車	6.9	X
トランスファーオイル	4WD車	0.9	トヨタ純正 ギヤオイルスーパー (API GL-5, SAE 75W-90)

項目	容量[L] (参考値)	銘 柄
マニュアルトランスアクスルオイル (含むディファレンシャル)	1.9	トヨタ純正 MGギヤオイル スペシャル II (API GL-3, SAE 75W-90)
リヤデファレンシャルオイル(4WD車)	1.7	トヨタ純正八イポイド ギヤオイルSX (API GL-5, SAE85W-90)
パワーステアリングフルード	0.7	トヨタ純正パワー ステアリングフルード
クラッチフルード		トヨタ純正 ブレーキフルード
ブレーキフルード		2500H

	容量 [L]	(参考値)	
項目	オイルのみ 交換時 充てん量	オイルとオ イルフィル ター交換時 充てん量	銘 柄
エンジンオイル	3.4	3.7	トヨタ純正 モーターオイルSMOW-20** (API SM,EC/ILSAC

※OW-20は、最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル

API規格SM/EC、SL/ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION(イルサック サーティフィケーション)マークがついています。





ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

外 気 温(℃)



※OW-20は、最も省燃費性に優れるオイルです。

■タイヤ、ホイールデータ

	項目		ホイールサイス	ζ	
		リムサイズ		D C D	オフセット量
タイヤ	' サイズ	スチールホイール	アルミホイール	F.C.D.	カノビグト里
バン	165R13-6PRLT	13×5J			39mm
ワゴン	165/80R1383S	13/33		100mm ×4(穴)	39111111
	175/65R14 82S	14×5½J	14×5½JJ		45mm

項目		タイヤが冷えているときの タイヤ空気圧 [kPa {kg/c㎡}]				
タイヤ	タイヤサイズ		前輪		後輪	
			%2	%1	%2	
バン	165R13-6PRLT	220 {2.2}	220 {2.2}	-220 {2.2}	280 {2.8}	
			240 {2.4} *3		300 {3.0} **3	
ワゴン	165/80R1383S					
	175/65R1482S					

※1…空荷時※2…100kg以上積荷(または4名乗車以上)※3…FF車のオートマチック車

■車両仕様

名称		型式	エンジン	駆動方式	グレード
	ワゴン	NCP58G		FF (前輪駆動)	ΤX
		NCP59G		4WD (4輪駆動)	ΤX
サクシード	バ	NCP51V		FF(前輪駆動)	U
			(1.5Lガソリン)		UL
	ン	NCP55V		4WD	U
		1107000		(4輪駆動)	UL

MEMO

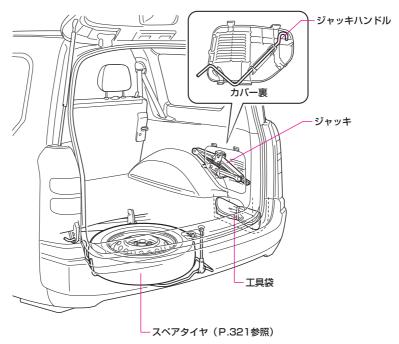
万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒	· 318
ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所 318	3
ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方 32	20
発炎筒の使い方 323	
故障したときは	·· 326
路上で故障したときは 326	
動けなくなったときは 327	
パンクしたときは	·· 328
タイヤの交換 328	
バッテリーがあがったときは	. 335
バッテリーあがりとは? 335	
オーバーヒートしたときは	. 338
オーバーヒートとは? 338	
けん引について	. 342
けん引のしかた 342	
事故が起きたときは	. 246
	. 340
あわてずに次の処置を行ってください 346	04=
車両を緊急停止するには	. 347
緊急停止のしかた 347	

万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所



工具袋・ジャッキは、ラゲージルーム右側に、スペアタイヤはラゲージルーム床下に格納されています。

ジャッキ・工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

●工具袋には次の工具が入っています。



工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- ●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使 用しないでください。

ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方

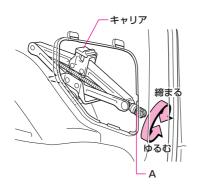
ジャッキ・工具の取り出し方



右側カバーを取りはずします。

ラゲージルーム右側の、カバーのツマ ミを押しながら取りはずします。

●カバー裏側にジャッキハンドル、裏側スペースに工具袋が収納されています。



2 ジャッキを取り出します。

ジャッキのAの部分をまわしてゆるめ、 ジャッキを取り出します。

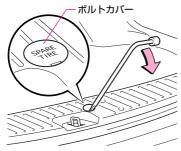
格納するときは、ジャッキがキャリア に固定するようにAの部分を締めます。



工具袋の収納スペースには、工具袋以外のものを収納しないでください。

- ●工具袋の収納スペースには、換気用の弁が取りつけられています。次の理由から工具袋以外のものを収納しないでください。
 - ●荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
 - 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスや水が進入するおそれがあります。
- ●工具・工具袋は必ず下記の点に注意して収納してください。工具が転がり、車体を傷つけるなどのおそれがあります。
 - ・工具は必ず工具袋に入れて収納する。

スペアタイヤの取り出し方



■取り出すときは

7 ラゲージルーム後部床上のボルトカバー をはずします。

ホイールナットレンチの先端を、カバーの切り欠きに差し込み、下側にこじるとはずれます。



2 ボルトをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、スペアタイヤ格納具をフックから取りはずせるぐらいまでゆるめます。



3 格納具を取りはずします。

格納具を少し持ち上げて、フックを手前に引いてはずし、格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろします。

4 スペアタイヤを取り出します。

- 7 タイヤをスペアタイヤ格納具に載せます。
- 2 格納具をフックにかけます。
- 3 床上のボルトを締めつけます。
 - ●タイヤが確実に固定されていることを確認します。
 - ●格納具がフックに確実に固定されるように、床上ボルトは十分締め つけてください。
- **4** ボルトカバーを取りつけます。 カバーの切り欠きが、車両後方になるように取りつけます。

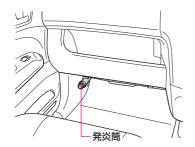


格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。



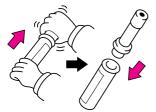
必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.314で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

格納場所



助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方



発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にし て差し込みます。



2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。



介警告

発炎筒は正しく取り扱ってください。

- ●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故 につながるおそれがあり危険です。
- ●発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなどによ り、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な 傷害を受けるおそれがあり危険です。



発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするの で、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。



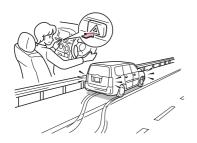
発炎筒について

- ●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- ●発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店 でお求めください。

MEMO

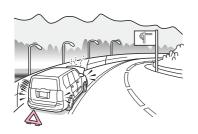
故障したときは

路上で故障したときは



非常点滅灯(P.200の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照)を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路 上駐車する場合、他車に知らせるため使用 します。



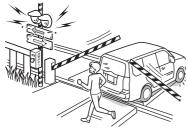
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務づけられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。 P.323 「発炎筒の使い方」参照。

動けなくなったときは

● 踏切で動けなくなったときは ■



シフトレバーを**⑩**にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。 脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

●エンジン スイッチを "START" で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

● 道路で動けなくなったときは



シフトレバーを**⑩**にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●エンジン スイッチを"START"で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。「メンテナンスノート」のサービス網/お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.69の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

- ●タイヤ交換するまえに
- 7 平らな場所に移動します。
 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。
- **2** パーキングブレーキをしっかりかけます。
- **3** エンジンを停止します。 オートマチック車はシフトレバーを**②**にし、エンジンを停止します。 マニュアル車はエンジンを停止し、シフトレバーを**③**に入れます。
- 4 車の存在を知らせます。 必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板 (または停止表示灯)を使用します。
- **5** ジャッキ・工具を取り出します。 P.318~320参照。
- 6 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。

輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店に で相談ください。

なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。 P.321参照。

●タイヤ交換のしかた



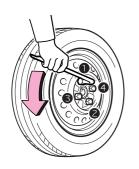
輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。 前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。)



2 ホイールキャップをはずします。

フルキャップ装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2~3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。) 傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

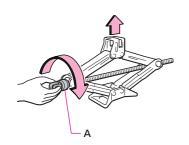


3 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

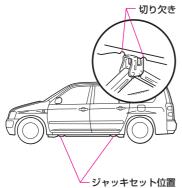
4 ジャッキを置きます。

地面の平らな固くて安定したところにジャッキを置きます。



5 ジャッキを上げます。

ジャッキのAの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。



6 ジャッキセット位置(切り欠きの間) にジャッキをかけます。

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。



7 ジャッキハンドルを取りつけます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に 確実に差し込みます。



8 ジャッキアップします。

ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

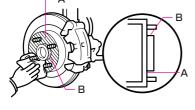
手でナットを左にまわして、取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。



17 交換するタイヤを取りつけます。

- ●タイヤを取りつけるときは、ディス クホイールのシート部やホイール裏 側の取りつけ面の汚れを拭き取って から取りつけてください。
- ●図のA・B面の汚れを拭き取ります。

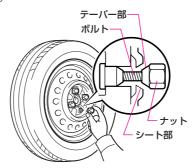


12 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

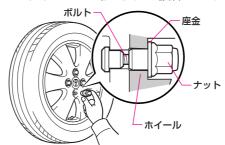
ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部(アルミホイールの場合、座金の裏側)の汚れ、異物を取り除いてください。

■スチールホイールからスチールホイールにかえるとき ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮 締めします。



■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

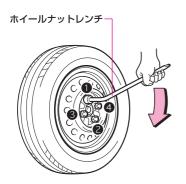
ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。





13車体をおろします。

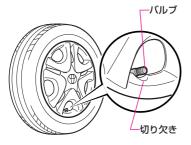
ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。



14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2~3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク: 103N·m {1050kgf·cm}



15 ホイールキャップを取りつけます。

●フルキャップ装着車では、タイヤの バルブ(空気口)に切り欠きを合わ せてホイールキャップを確実に取り つけます。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

17 タイヤの空気圧を点検してください。 P 314参照。

⚠ 警告

パンクしたまま走行しないでください。

- ●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
- ●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪 止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
 - ◆人を乗せたままジャッキアップしないでください。
 - ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
 - ●ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
 - ●車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、 重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業し てください。
- ●ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。

締めつけトルク: 103N·m {1050kgf·cm}



タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを 塗らないでください。

- ●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
- ●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。 つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン(溝模様)のタイヤを装着してください。
- ●アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。



ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ●ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意 してください。けがをするおそれがあります。
- ●フルキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、 走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつ けないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- ●傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- ●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは?



次のような状態が、バッテリーあがりです。

- ●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ●ヘッドランプがいつもより暗い。
- ●ホーンの音が小さい、または鳴らない。

● 処置のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

7 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの一端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

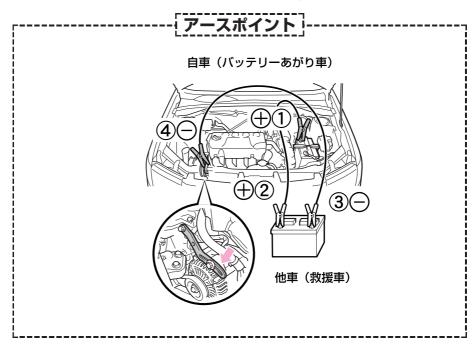
- (1)自車のバッテリーの(4)端子
- (**2**)救援車のバッテリーの(**1**)端子
- 3 救援車のバッテリーの○端子
- (4)次ページの図で指示している箇所(アースを取る。)

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車(バッテリーあがり車)のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。 ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。



● バッテリーあがりを防ぐために ■

- ●エンジンを停止したままランプをつけたり、オーディオ・エアコンなどを 使わないようにしてください。
- ●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

↑ 警告 火気をバッテリーに近づけないでください。

- ●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性 ガスに引火・爆発し、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあ り危険です。
 - ④の接続は自車バッテリーの 端子につながないでください。バッテリーに直接つなくと、火花が発生します。
 - ブースターケーブルを接続するとき、⊕と ○端子を絶対に接触させないでください。 接触させると火花が発生します。
 - 火気をバッテリーに近づけないでください。
- ●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- ●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、 近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につなが るおそれがあり危険です。
- ●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。



救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

- ●他車(救援車)のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
- ●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは?



次のような状態が、オーバーヒートです。

- ●高水温警告灯(P.186)が点滅したり、 エンジンの出力が低下する。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

● 処置のしかた

7 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ファンを停止します。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするために ボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。 ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に 連絡してください。

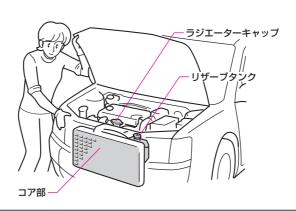


4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部(放熱部)が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。



6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯が点灯したときは、空調の温度調整を 最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内 の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

万一のとき

● オーバーヒートを防ぐために ■

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。 点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。



やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ●ラジエーターやリザーブタンク(補助タンク)が熱いときはラジエーターキャップ・エア 抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなどにより、生命に かかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップ・バルブを開けるときは、 ラジエーターやリザーブタンク(補助タンク)が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包みゆっくりと開けてください。
- ●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

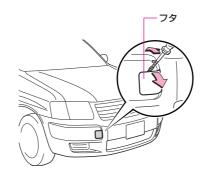
けん引について

けん引のしかた

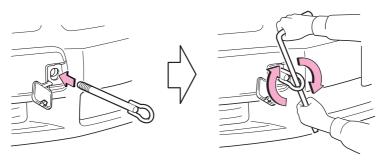
このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引する ものではありません。

けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはJAFなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

- ●エンジンがまわっているのに車が動かない。
- ●異常な音がする。
- 7 けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。(P.318~320参照)
- 2 フタとバンパーのすき間入る程度の薄刃の○ドライバー先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いて、フタをはずします。

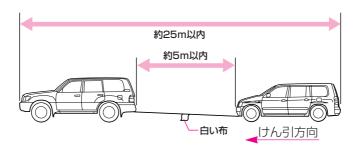


3 けん引フックをホイールナットレンチを用いて確実に取りつけます。



4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。



5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを "ACC" または "ON" にします。

6 発進します。

シフトレバーを●にして、パーキングブレーキを解除します。

7前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。



小警告

けん引される車は慎重に運転してください。

- ●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効き が悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故に つながるおそれがあり危険です。
- ●エンジンキーを抜いたり、エンジン スイッチを "LOCK "にしないでください。キー が抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につな がるおそれがあり危険です。また、"LOCK"だとキーが抜けるおそれがあります。
- ●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしな いでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、 その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。



長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

- ●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、 ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- ●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。 前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつき を起こしたり、車がトレッカー(台車)から飛び出すおそれがあります。 また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。



- ●オートマチック車の場合、けん引速度・約30km/h以下、けん引距離・約80km以内で、 前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向での けん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、 これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
- ●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロ 一プをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
- ●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
- ●スタック * したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してくださ い。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フッ クやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
 - ※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。



固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。この車で他車をけん引することはできません。またフロントのけん引フックを、固縛用として使用しないでください。



知 知 識

寒冷地仕様車の固縛用フック(緊急用フック)について

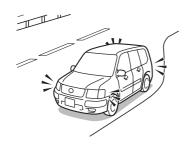
寒冷地仕様車のリヤの固縛用フックは、緊急用フック としても使用できます。緊急用フックとは、雪の吹き だまりなどでスタックして、走行できなくなったとき に、緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用 するためのものです。

この車で他車をけん引することはできません。



事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください



続発事故を防止します。

ほかの交通のさまたげにならないよう な安全な場所に車を移動し、エンジン を停止します。



2 負傷者がいる場合は、応急手当を行い ます。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ(氏名・住所・電話番号)を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

7 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常よりも強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- **2** シフトレバーを**®**に入れます。
- ■シフトレバーがのに入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。
- 4 エンジンを停止します。
- ■シフトレバーが心に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
- 4 エンジンスイッチを "ACC"にして、 エンジンを停止します。



5 車を安全な道路脇に停めます。

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

- ●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キー を抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

五十音さくいん

+4=	L L C(冷却水)
あ行	タンク容量・濃度310
の1 7 アクセサリーソケット227	冬の前の準備・点検255
アジャスタブルシートベルトアンカー …142	エンジンオイル
アンチロックブレーキシステム	オイル量312
(ABS)244	注入口・レベルゲージ位置295
アンテナ217	冬の前の準備・点検255
ELR機構付シートベルト242	エンジン警告灯182
ECT (Super ECT)250	エンジン始動の手順152
イグニッションスイッチ151	エンジン スイッチ151
EBD付ABS&ブレーキアシスト ······244	エンジンのかけ方151
EBD付ABS&ブレーキアシスト	エンジンルーム
についての注意59	エンジンルームから
ABS&ブレーキアシスト警告灯180	煙(水蒸気)が出ている338
イラスト目次8	点検295
インナーミラー147	ボンネットオープナー125
インパネテーブル222	エンストで始動できなくなったときは …327
ウインドゥウォッシャー	オイル類
液の補給300	(メンテナンスデータ)309~313
タンクの容量309	オーディオの取り扱い212
冬の前の準備・点検255	オートマチック車
噴射のしかた197	運転のしかた162
ウインドゥデフォッガー(曇り取り)	オートマチック車についての注意60
スイッチの使い方199	オートマチックトランスアクスルフルード
ウインドゥロックスイッチ118	フルード量310
ウォーニングランプ(警告灯)178	オーバーヒート
動けなくなったときは327	オーバーヒートしたときの注意78
運転席SRSエアバッグ ······232	オーバーヒートしたときは338
運転席シートベルト非着用警告灯188	オープナー
運転席ワイドフリーラック226	フューエルリッドオープナー122
エアコン	ボンネットオープナー125
使い方204	お子さまを乗せるときの注意38
手入れ274	お出かけ前の注意15
エアコンガス(冷媒)の点検274	オドメーター(積算距離計)172
SRSエアバッグ232	
SRSエアバッグ警告灯181	
SRSエアバッグについての注意54	
SAE粘度(エンジンオイル)313	

 か行	後退灯
	バルブの交換
カードホルダー225	W(ワット)数 ············
外装の手入れ271	故障したときは
買い物フック224	子供専用シートについての
ガソリン(燃料)	
使用ガソリン/タンク容量309	
カップホルダー224	
間欠時間調整式ワイパー195	
環境保護のために266	
寒冷時の取り扱い255	
寒冷地用ワイパーブレード256	
‡- 105	
キーがまわせない151	
キー抜き忘れ防止チャイム109	
"キーキー"と金属音がタイヤから	
聞こえる〈ブレーキパッドウェア	
インジケーター〉32	
キーレスエントリー	
(ワイヤレスドアロック)120	
基準値(メンテナンスデータ)308	
キックダウン60	
ギヤ(シフト)ポジション表示176	
緊急停止のしかた347	
空気圧(タイヤ)314	
区間距離計(トリップメーター)172	
曇り取り(リヤウインドゥ	
デフォッガー)199	
クラクション(ホーン)201	
クリープ現象60	
車のまわりの点検302	
グレード名称315	
警音器(ホーン)201	
計器(メーター)170	
警告灯が点灯・点滅したときは178	
経済的な運転264	
けん引について342	
コインホルダー225	
工具318	
光軸上下調整193	

後退灯	
バルブの交換	292
W(ワット)数 ······	309
故障したときは	326
子供専用シートについての注意	44

 さ行	助手席SRSエアバッグ232
	助手席シートベルト非着用警告灯188
サービスデータ	助手席ワイドフリーラック226
(メンテナンスデータ)308	スイッチの使い方190
サンバイザー219	Super ECT
シート128	Super ECTとは250
シートについての注意41	登降坂変速制御システム251
フロントシート130	フレックスロックアップシステム250
リヤシート134	ストップランプ(制動灯)
ヘッドレストの調整132、133	バルブの交換291
シートベルト138	W (ワット) 数 ······309
シートベルトの働き242	スノータイヤ (冬用タイヤ)256
シートベルトについての注意47	スピードメーター171
シートベルト非着用警告灯188	スペアタイヤ321
着用のしかた141、144	スモールランプ(車幅灯)
シガレットライター221	バルブの交換288
事故が起きたときは346	ライトスイッチ190
室内装備品の使い方219	W (ワット) 数 ·······309
室内灯(ルームランプ)219	制動灯(ストップランプ)
W(ワット)数 ······309	バルブの交換291
シフトポジション表示176	W (ワット) 数 ·······309
シフトレバー	積算距離計 (オドメーター)172
オートマチック車の使い方156	洗車271
❷から動かせない159	前照灯(ヘッドランプ)
マニュアル車の使い方160	バルブの交換286
シフトロックシステム159	ライトスイッチ190
ジャッキ	W (ワット) 数 ·······309
格納位置318	センターボックス222
ジャッキアップ	走行について
ジャッキアップについての注意76	走行しての点検307
ポイント(セット位置)330	走行するときの注意22
ジャッキハンドル318	走行中、異常に気づいたら30
車幅灯	走行できなくなったときは
バルブの交換288	(けん引について)342
ライトスイッチ190	速度計(スピードメーター)171
W(ワット)数 ······309	,,
車両型式315	
車両を緊急停止するには347	
充電警告灯184	
収納スペース225	

た行	
タイヤ	
空気圧	
スペアタイヤ	
タイヤチェーン	
タイヤについての注意	69
タイヤの点検275、	302
タイヤ/ホイールサイズ	∙314
タイヤローテーション	
(タイヤ位置交換)	.275
冬用タイヤ	.256
タイヤを交換するときは	.328
正しい運転姿勢(シート)	∙128
正しい着用(シートベルト)	·138
チェーン(タイヤチェーン)	
チャイルドプロテクターの使い方	·108
駐車灯(非常点滅灯)	
スイッチ	
バルブの交換289~	
W (ワット) 数 ······	.309
駐車のしかた	
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)…	.168
点検基準値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	308
駐停車するときの注意	33
チルトステアリングレバー (ハンドル上下調整)	146
	.146
ディファレンシャルオイル 	.210
オイル量 ······· 手入れ(車の手入れ) ·········	.010 .070
テールランプ(尾灯)	-270
ブールフラフ (尾バ) バルブの交換	.291
ライトスイッチ	
W (ワット) 数 ···································	
デッキサイドポケット ····································	
デュアルSRSエアバッグ	.232
電球(バルブ)の交換 ·······	.284
雷球(バルブ)のW(ワット)数	

点検(日常点検)	294
電源、音量・音質調整(ラジオ)	213
点検基準値(メンテナンスデータ)308
点検整備実施のお願い	14
点検・手入れ時の注意	67
ドア	
開閉	104
ドアを開けたら"ピーピー、ビ	゚ーピー"
と音が鳴り続けた	109
ドアガラス	
開閉	116
ドアミラー	148
ドアロック	
ドームランプ	
W(ワット)数 ······	
登降坂変速制御システム	251
搭載工具	318
時計	220
トランスアクスルフルード	
フルード量	310
トリップメーター(区間距離計)	172

な行

内外気切り替え(エアコン)	208
内装の手入れ	273
3常点検	294
然料	
タンク容量	309
燃料計	171
燃料残量警告灯	187
燃料補給口(フューエルリ	ッド)122
燃料補給時の注章	20

は行

パーキングブレーキ	··168
点検基準値	.308
排気ガスに対する注意	35
灰皿	.221
ハイビーム(ヘッドランプ)	
操作方法 ······	
バルブの交換	
ヘッドランプ上向き表示灯	··176
W (ワット) 数 ···································	.309
ハイマウントストップランプ	
バルブの交換	.293
W(ワット)数 ······	.309
ハザードランプ(非常点滅灯)	
スイッチ	.200
バルブの交換289~	-291
W(ワット)数 ······	.309
挟み込み防止機構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
発炎筒の使い方	
バックアップランプ(後退灯)	
バルブの交換	.292
W (ワット) 数 ······	.309
バックドア	
開閉	··110
バッテリー	
バッテリーがあがったときは	.335
バッテリーについての注意	
冬の前の準備・点検	.255
パッドウェアインジケーター(ブレーキ	
パッドウェアインジケーター)	32
バルブ (電球) の交換	.284
バルブ (電球) のW (ワット) 数	
パワーウインドゥ	
スイッチ ····································	··116
パワーウインドゥが動かない	
パワーステアリングフルード	
フルード量	·311
パンクしたときは	.328
番号灯	
W (ワット) 数 ···································	.309
(1 / 20	

半ドア警告灯187	ブレーキ警告灯183
ハンドル	ブレーキパッドウェアインジケーター32
位置の調整146	ブレーキフルード
ハンドルが重くなった31	タンク位置295
ヒーター204	ブレーキペダル
"ピーピーピー"と長い音の繰り返し	点検基準値308
〈リバース(後退)ブザー〉159	ブレーキランプ(制動灯)
"ピーピー、ピーピー"と短い音の繰り返し	バルブの交換291
〈キー抜き忘れ防止チャイム〉109	W(ワット)数 ······309
非常点滅灯	ブレーキを踏むと "キーキー" と 音がする······32
スイッチ200	音がする32
バルブの交換289~291	フレックスロックアップシステム
W(ワット)数 ······309	250
尾灯	フロアコンソール224
バルブの交換291	フロアマット230
ライトスイッチ190	フロントシート130
W(ワット)数 ······309	フロントドア
ヒューズの受け持つ装置	開閉104
運転席側ヒューズボックス280	ヘッドランプ
エンジンルーム内ヒューズボックス …282	上向き表示灯176
ヒューズの点検・交換278	バルブの交換286
表示灯(メーター)174	ライトスイッチ190
日よけ(サンバイザー)219	W(ワット)数 ······309
Vフレックスフルタイム4WD248	ヘッドレスト132、133
4WDについての注意 ······64	ペンホルダー225
Vリブドベルト	ホイールサイズ314
点検基準値308	ホイールナットレンチ318
フォースリミッター機構242	ホイール(タイヤ)の交換328
フォグランプ	方向指示灯
バルブの交換291	バルブの交換289~291
リヤフォグランプスイッチ194	方向指示表示灯176
W(ワット)数 ······309	方向指示レバー192
フック(けん引)342	W(ワット)数 ······309
フューエルキャップの開閉122	ホーン201
フューエルメーター(燃料計)171	ボンネット125
フューエルリッド(燃料補給口)122	ボンネットから煙(水蒸気)
冬の前の準備・点検255	が出ている338
冬用タイヤ256	
プリテンショナー機構242	
プリテンショナー警告灯181	
ブレーキアシスト244	

ま行	5行
万一の事故のときの注意79	ライセンスプレートランプ(番号灯)
ミラーの調整	ライトスイッチ190
インナーミラー147	W (ワット) 数 ······309
ドアミラー148	ライトスイッチ190
メーター170	ラゲージルームランプ219
メーター照度調整ボタン173	W (ワット) 数 ······309
メンテナンスデータ308	ラジエーター
	オーバーヒートしたときは338
	タンク・キャップ位置295
や行	冷却水濃度・容量310
	ラジオの取り扱い212
油圧警告灯185	リバース(後退)ブザー159
4WD	リモコン(ワイヤレスドアロック)120
(Vフレックスフルタイム4WD) ·······248	電池交換276
4WD車についての注意 ······64	リヤウインドゥデフォッガー199
	リヤシート134
	リヤディファレンシャルオイル
	オイル量311
	リヤドア
	開閉104
	リヤドアが車内から開けられない108
	リヤフォグランプ194
	バルブの交換291
	W(ワット)数 ······309
	ルームミラー(インナーミラー)147
	ルームランプ(室内灯)219
	W(ワット)数 ······309
	冷却水
	オーバーヒートしたときは338
	濃度・容量310
	冬の前の準備・点検255
	リザーバータンク位置295
	ロービーム(ヘッドランプ)
	バルブの交換286
	W (ワット) 数 ······309

路上で故障したときは ······326 ロックレバー ·····107

わ行

ワイドフリーラック	···226
ワイパー&ウォッシャー	195
ワイヤレスドアロック	120
リモコンの電池交換	276
ワックス	270
W(ワット)数 ······	309
1D I Nポケット	223

警告灯さくいん



ABS& ブレーキアシスト 警告灯 P.180



高水温警告灯 (赤色)

P.186



SRSエアバッグ/ プリテンショナー 警告灯 P.181



燃料残量警告灯 P.187



エンジン警告灯 P.182



半ドア警告灯 P.187



ブレーキ警告灯 P.183



運転席シート ベルト非着用 警告灯

P.188



充電警告灯 P.184



助手席シート ベルト非着用 警告灯

P.188



油圧警告灯 P.185



お問い合わせ、ご相談は 下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター 全国共通・フレーコール

6000-700-7700

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450 - 0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27 第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、 http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

H39自動車株式会社 http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。 ●印刷 18-2010年 6 月 1 日 初版

> M 52A13 01999-52A13